

平成 20 年度授業アンケート概要

1) 実施期間

平成 20 年 5 月 29 日 (木) ~ 平成 20 年 6 月 11 日 (水)

2) 実施科目

履修登録者が 16 人以上の科目で実施 (ただし、実験・実技・演習・ゼミを除く)。教員は担当している科目のうちから 2 科目以上 (1 科目の場合は 1 科目のみ) を自分で選び実施する。今年度の実施科目合計は 471 科目であった。

3) 実施率

専任教員 100% 非常勤講師 100%

4) 個人結果の各教員への報告

「授業アンケート結果」(解析結果とそれをグラフ化したもの) はアンケート調査実施後 1~2 週間以内に返却した。

5) コメント

各教員は「授業アンケート結果」をもとに回答者数の最も多い科目 1 科目について学生に対するコメント (500 字程度) を提出する (ただし、実際には 2, 3 科目をコメントされた分もあったが、提出分はすべてこの冊子に掲載した)。コメント内に「個人別集計」(結果の数値) を示す (いわゆる公表) か否かは、各教員の自由意志とした。

6) コメント提出率

専任教員 100% 非常勤教員 95%

授業アンケート用紙

【おもて面】

授業アンケート 科目名()

このアンケートは授業内容をより充実させるために現状を把握し、その改善を図るための大切な資料となるものです。率直に答えてください。アンケート事項への回答は次のとおりに行ってください。

- 下の学年、学科欄について○内を塗りつぶしてください。
- 下記の設問について、回答⑤～①(設問2、5、6では④まで)の中からひとつ選び、○内を塗りつぶしてください。
- 裏面は自由記述欄になっていますので意見・感想を書いてください。

(ここへは記入しないでください)	
備考	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

マーク時の注意

- 必ず黒の鉛筆またはシャープペンシルで濃く記入すること。
※ボールペンは不可
- 誤ってマークした場合は消しゴムできれいに消し、消しクズを完全に取り除いた上、新たにマークし直すこと。
- この用紙は絶対に折り曲げたり、余白部分を汚したりしないこと。
- 良い例  悪い例      うすい

あなたの学年にマークしてください。

学	<input type="radio"/> 4年	<input type="radio"/> 3年
年	<input type="radio"/> 2年	<input type="radio"/> 1年

あなたの学科にマークしてください。

学	<input type="radio"/> M	<input type="radio"/> E	<input type="radio"/> C	<input type="radio"/> SまたはV	<input type="radio"/> WまたはR
科	<input type="radio"/> H	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> I	<input type="radio"/> N	<input type="radio"/> D

		強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	まったくそう 思わない	
1	先生の声(マイクを含めて)は聞こえる	⑤	④	③	②	①	
2	黒板の字はよく読める	⑤	④	③	②	①	黒板は使用しない ①
3	先生は学生の理解度を確かめながら授業を進めている	⑤	④	③	②	①	
4	説明の仕方はわかりやすい	⑤	④	③	②	①	
5	パワーポイント、ビデオ、カセット等の視聴覚機器は授業の理解に役立つ	⑤	④	③	②	①	使用しない ①
6	プリント等の配布資料は授業の理解に役立つ	⑤	④	③	②	①	配布資料はない ①
7	授業の目標は明確である	⑤	④	③	②	①	
8	先生の授業の準備は良くできている	⑤	④	③	②	①	
9	授業内容は理解できる	⑤	④	③	②	①	
10	授業内容に刺激を受けたり、新たな興味がわいてくる	⑤	④	③	②	①	
11	総合的に判断して、この授業に満足している	⑤	④	③	②	①	

※担当教員のオリジナル設問

		強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	まったくそう 思わない	
12	(教員から別途指示された場合のみマークしてください)	⑤	④	③	②	①	
13	(教員から別途指示された場合のみマークしてください)	⑤	④	③	②	①	
14	(教員から別途指示された場合のみマークしてください)	⑤	④	③	②	①	

※裏面の自由記述欄に意見・感想を書いてください。

【うら面】

この授業全体に対する意見や感想を書いてください(授業に関係のない内容は書かないでください)。

※さらに以下の事柄についても意見・感想があれば書いてください。

(1)この授業の教室環境・設備について。

(2)この授業内の私語の状況について。

(3)この授業によって刺激を受けたり、新たな興味がわいてきたならば、それはどのような点ですか。

(4)この授業の1回目から今回までの中で重要と思ったキーワードを挙げてください(何個でも)。

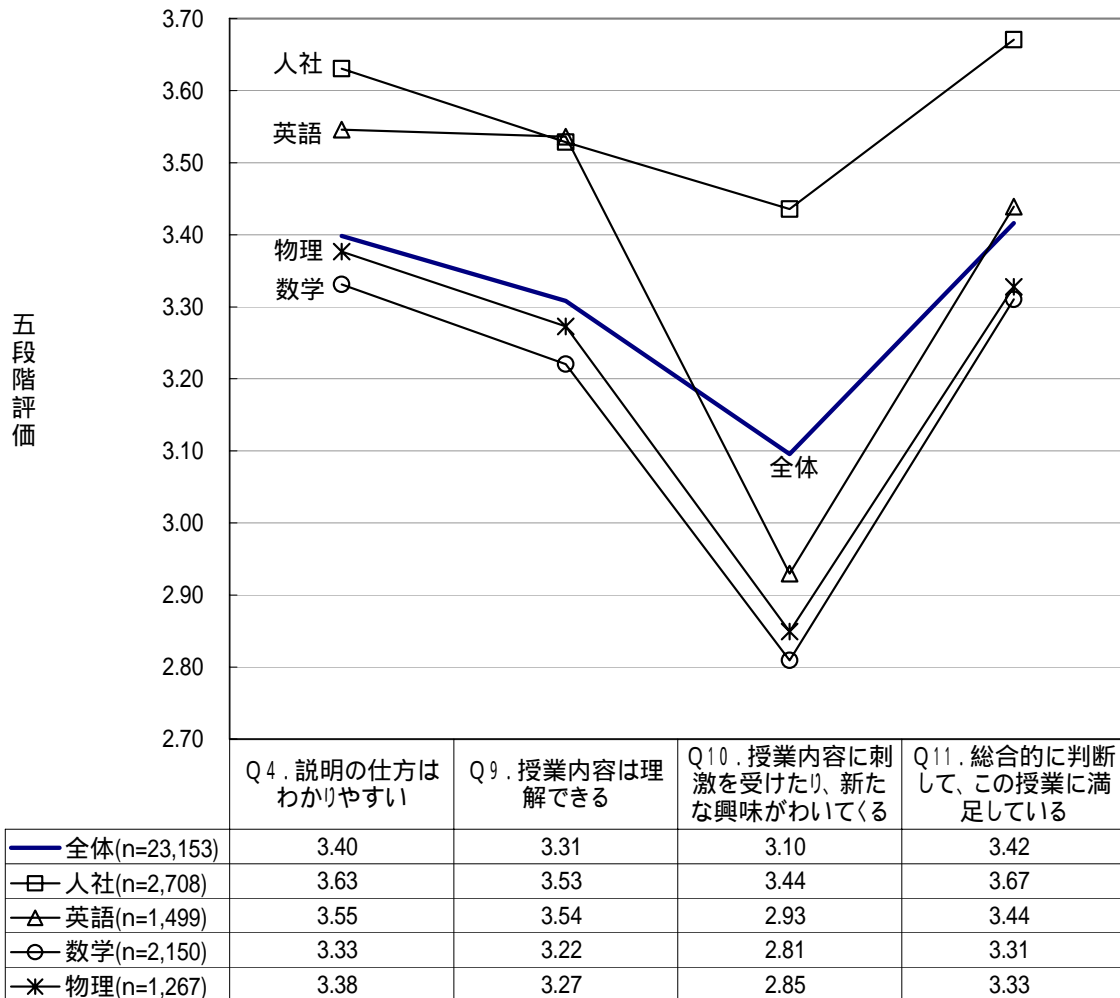
(5)この授業の内容に対してあなたが理解できないと思うところがあればどこですか。

アンケート結果の読み方に関する注意

平均点(五段階評価ポイント)はどうしても全体集計に目が行きがちですが、科目の分野や分類により、数字が大きく違います。

例えば、人文、英語、数学、物理の4分野(いずれもサンプル票数が1,000以上)で設問の一部を較べたのが次のグラフです。

五段階評価の分野比較



これで明らかなように分野によって、特定の設問で評価は大きく変わります。例えばQ10「授業内容に刺激を受けたり、新たな興味がわいてくる」の設問では最大 3.44 - 2.81 = 0.63 ポイントもの差があります。「全体」平均は便宜上出していますが、分野の特性も知っておくことが必要となります。

次のページに全設問の分類別・分野別平均点の比較表を示しました。全体と較べてください。票数(サンプル数)も示してあります。サンプル数の小さいセグメントはデータの精度が下がりますのでご注意ください。

五段階評価 分類別・分野別比較表

【分類別】	平均点	全体	三 - 分 類	情 - 分 類	分類	三 - 分 類	情 - 分 類	三 - 分 類	情 - 分 類	教職
Q1	先生の声	4.15	4.26	4.34	4.17	4.12	4.17	4.07	4.12	4.44
Q2	黒板の字	3.63	3.80	3.60	3.65	3.74	3.64	3.59	3.47	3.94
Q3	理解度確認	3.33	3.45	3.28	3.47	3.42	3.36	3.31	3.20	3.49
Q4	説明の仕方	3.40	3.57	3.59	3.70	3.40	3.47	3.33	3.26	3.71
Q5	視聴覚機器	3.87	3.79	3.97	3.88	3.81	3.96	3.77	3.96	4.04
Q6	配布資料	3.98	4.00	3.96	4.03	3.94	4.02	3.95	4.03	4.18
Q7	授業の目標	3.52	3.58	3.59	3.69	3.50	3.57	3.48	3.47	3.79
Q8	授業の準備	3.76	3.85	3.90	3.72	3.77	3.79	3.70	3.70	4.02
Q9	内容の理解	3.31	3.51	3.50	3.62	3.30	3.37	3.23	3.18	3.62
Q10	刺激・興味	3.10	3.20	3.46	3.48	2.92	2.97	3.07	3.06	3.41
Q11	満足度	3.42	3.54	3.67	3.72	3.36	3.45	3.36	3.32	3.70

	票数(サンプル数)	全体	三 - 分 類	情 - 分 類	分類	三 - 分 類	情 - 分 類	三 - 分 類	情 - 分 類	教職
Q1	先生の声	23132	3205	1193	485	2746	2393	7696	4885	449
Q2	黒板の字	20662	2992	1187	484	2740	2269	6840	3772	298
Q3	理解度確認	23093	3201	1188	483	2740	2388	7684	4882	448
Q4	説明の仕方	23030	3194	1189	477	2729	2383	7664	4866	448
Q5	視聴覚機器	13289	1903	961	482	639	1095	4421	3532	217
Q6	配布資料	18461	2401	794	485	2719	2135	6294	3213	340
Q7	授業の目標	23102	3195	1192	485	2742	2389	7691	4880	448
Q8	授業の準備	23104	3200	1191	484	2742	2390	7691	4879	448
Q9	内容の理解	23096	3200	1191	484	2737	2386	7689	4880	449
Q10	刺激・興味	23114	3202	1191	483	2743	2389	7697	4880	449
Q11	満足度	23110	3202	1190	484	2742	2387	7694	4882	449

【分野別】	平均点	全体	人社	英語	数学	物理	化学	学際
Q1	先生の声	4.15	4.29	4.22	4.10	4.08	4.50	4.16
Q2	黒板の字	3.63	3.67	3.90	3.73	3.68	4.13	3.67
Q3	理解度確認	3.33	3.35	3.59	3.33	3.36	4.03	3.16
Q4	説明の仕方	3.40	3.63	3.55	3.33	3.38	3.82	3.42
Q5	視聴覚機器	3.86	3.96	3.40	4.20	3.66	4.18	3.90
Q6	配布資料	3.98	4.03	3.90	3.95	3.89	4.40	3.85
Q7	授業の目標	3.52	3.63	3.54	3.47	3.45	3.75	3.43
Q8	授業の準備	3.76	3.90	3.74	3.74	3.74	4.15	3.88
Q9	内容の理解	3.31	3.53	3.54	3.22	3.27	3.60	3.48
Q10	刺激・興味	3.10	3.44	2.93	2.81	2.85	3.42	3.11
Q11	満足度	3.42	3.67	3.44	3.31	3.33	3.83	3.41

	票数(サンプル数)	全体	人社	英語	数学	物理	化学	学際
Q1	先生の声	23132	2706	1497	2149	1267	259	407
Q2	黒板の字	20662	2620	1468	2147	1266	259	304
Q3	理解度確認	23093	2696	1496	2142	1266	259	407
Q4	説明の仕方	23030	2693	1490	2139	1256	259	406
Q5	視聴覚機器	13289	1917	782	152	311	81	304
Q6	配布資料	18461	1975	1289	2101	1243	258	407
Q7	授業の目標	23102	2702	1493	2147	1265	257	406
Q8	授業の準備	23104	2701	1495	2146	1266	258	406
Q9	内容の理解	23096	2702	1492	2144	1264	258	407
Q10	刺激・興味	23114	2701	1495	2147	1266	257	407
Q11	満足度	23110	2702	1496	2147	1266	257	406

(1) 先生の声(マイクを含めて)は聞こえる

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	8236	35.60%				
4. そう思う	11257	48.66%				
3. どちらともいえない	2647	11.44%				
2. そう思わない	772	3.34%				
1. まったくそう思わない	220	0.95%				
サンプル数(%ベース)	23132	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他/無効	23		4.15	2.20	4.94	

「そう思う」すなわち「よく聞こえる」以上が約 85%であり、「どちらともいえない」を普通に聞こえると解釈すれば 96%の学生諸君にとって大半の授業は問題ない。

声が聞こえることはコミュニケーションの始まりであり、授業の原点である。その点からみると「そう思わない」すなわち「聞きづらい」が 3%強、「非常に聞きづらい」1%は数として少ないが、授業のスタートラインに立っていないことになる。教員は 1~2 番を“0”にする努力が必要である。マイクを使う、学生の方を向いて話す、「聞こえますか」と尋ねてみる、など工夫の余地がある。学生諸君も「聞こえません」とはっきり言ってほしい。

(2) 黒板の字はよく読める

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	3870	19.72%				
4. そう思う	8095	41.26%				
3. どちらともいえない	4857	24.76%				
2. そう思わない	2144	10.93%				
1. まったくそう思わない	654	3.33%				
0. 黒板は使用しない	1042					
サンプル数(%ベース)	20662	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他/無効	2493		3.63	1.86	4.67	

苦労せずに普通に字が読めるのは 3~5 番であり、86%を占める。問題は「読みづらい、読めない」の 1~2 番が 14%もあることである。黒板の字が読めることは重要である。学生諸君が授業を理解する上で上記(1)の「声」と共に「読める字」を書くことは教員が身につけておくべき基本である。大切と思い、せっかく書いた文字が読めないのは残念である。上手な字でなくてよい。字の大きさも含めて「ていねいな字」「読める字」を書くことは授業をするもののマナーである。一方、学生諸君も「字が読めません」とはっきり言おう。

(3) 先生は学生の理解度を確かめながら授業を進めている

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	2578	11.16%				
4. そう思う	7804	33.79%				
3. どちらともいえない	8585	37.18%				
2. そう思わない	2892	12.52%				
1. まったくそう思わない	1234	5.34%				
サンプル数 (%ベース)	23093	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他 / 無効	62		3.33	1.78	4.71	

先生が言っている内容の大筋がわかっているかどうかの確認作業である。4～5番から約45%はこの確認作業がなされていると読める。しかし1～2番から、先生が一方的に教科書を読み、黒板に書いていく授業が約18%ある、つまり5人に1人の割合で学生がそう感じている。確認作業とは区切りの良いところで「わかりますか」「わからないところや質問はありませんか」と聞く、質問する、黒板に書いてもらう、といったように一方的になりがちな授業に学生諸君も参加させる双方向授業の原点である。学生にも緊張感を与え、授業へ取り組む姿勢が変化する。しかし、100人を超す授業では難しいといわれる。また、授業の進行をあまり遅らすことになってはいけない。悩ましいところではある。

(4) 説明の仕方はわかりやすい

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	2860	12.42%				
4. そう思う	8412	36.53%				
3. どちらともいえない	7883	34.23%				
2. そう思わない	2791	12.12%				
1. まったくそう思わない	1084	4.71%				
サンプル数 (%ベース)	23030	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他 / 無効	125		3.40	1.86	4.61	

「わかりやすい」を意味する4～5番は約50%である。一方「わかりづらい」の1～2番も17%ある。わかりやすく説明することはプロとしての教員の腕の見せ所でもある。「わかりやすい」とはレベルを下げることではない。受講する学生の背景、学力を知りレベルを下げることなく教えることである。そこには当然、「わからせるための工夫」が必要になる。説明したのに相手がわからないと感じることは教員にとっても、学生にとっても残念なことである。学生も「がわかりません」と言えばよいのだが、を見つけるまでがたいへんである。教員のほうから理解度と絡めて「わかりますか」と尋ねるのがよい。

(5) パワーポイント、ビデオ、カセット等の視聴覚機器は授業の理解に役立つ

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	3141	25.46%				
4. そう思う	5475	44.39%				
3. どちらともいえない	2854	23.14%				
2. そう思わない	643	5.21%				
1. まったくそう思わない	222	1.80%				
0. 使用しない	954					
サンプル数 (%ベース)	13289	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他 / 無効	9866		3.87	2.11	4.87	

視聴覚機器の示す内容は動くもの、現場の様子、生の音（声）、精密な図面など教員自身が授業中に表現したり、見せることが難しいものである。使用目的は授業内容を学生諸君により多く、より深く理解してもらうためである。その意味で4～5番の「授業の理解に役立つ」と思う学生が約70%いることを示す。一方「役に立っていないとは思わない」を示す1～2番が7%ある。3番の「どちらともいえない」も含めると30%は使用方法を考えなおすことが必要である。特に利用が急増しているパワーポイントは多用すると、学生は「わかったつもり」になるが身に付いていないことが多いと言われる。

(6) プリント等の配布資料は授業の理解に役立つ

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	4974	29.51%				
4. そう思う	7641	45.34%				
3. どちらともいえない	3434	20.37%				
2. そう思わない	597	3.54%				
1. まったくそう思わない	208	1.23%				
0. 配布資料はない	1607					
サンプル数 (%ベース)	18461	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他 / 無効	4694		3.98	2.89	4.93	

上記(5)の視聴覚機器と同様に、配布資料は授業内容をより深く理解してもらうためのものである。「役立つ」を示す4～5番が75%であり、学生諸君には概ね好感をもって受け入れられている。反面、「役に立たない」を示す1～2番が5%ある。教員が「役立つ」と思い準備したものが、学生にとっては必ずしも役立っていない。3番の「どちらともいえない」も20%ある。1～3番合計25%については、せっかく時間をかけて準備する資料である、受け取る学生の立場になって内容や見やすさを今一度検討しなおす必要がある。

(7) 授業の目標は明確である

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	3149	13.63%				
4. そう思う	8920	38.61%				
3. どちらともいえない	8525	36.90%				
2. そう思わない	1835	7.94%				
1. まったくそう思わない	673	2.91%				
サンプル数(%ベース)	23102	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他/無効	53		3.52	2.09	4.58	

授業の目標をしっかりと認識できている学生は 4～5 番合計の 52%、約半分である。さらに「はっきりしないが受講している（この多くは「単位が取ればよい）」が 3 番であり 37%、つまり 3 人に一人は目標・目的がはっきりしないまま授業に望んでいることになる。「何を目標とした授業なのかわからない」を示す 1～2 番が 11% である。

教員にとって授業のためにせっかく準備したのに「何のための授業かわからない」ではさびしすぎる。シラバスには書いてあるのだが授業中、それも第 1 回目だけでなく 3 回目、5 回目と複数回にわたって「この授業の目的は・・・」を説明する必要がある。

(8) 先生の授業の準備は良くできている

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	4283	18.54%				
4. そう思う	10551	45.67%				
3. どちらともいえない	6938	30.03%				
2. そう思わない	1017	4.40%				
1. まったくそう思わない	315	1.36%				
サンプル数(%ベース)	23104	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他/無効	51		3.76	2.42	4.74	

「よく準備されている」を示す 4～5 番が 65% 近く、さらに「良くもないけれど、悪くもない」を示す 3 番が 30%、合計すれば 95% に達する。すなわち大多数の学生諸君が「先生はしっかり準備している」ことを認めている。教員にとって準備の苦勞が認められ、うれしい限りである。反面、わずか 6% ではあるが「準備不足」を感じている学生がいる。学生に指摘されるようでは教育のプロとしてさびしい。少なくとも 3～5 番に入るようもうひと踏ん張りである。

(9) 授業内容は理解できる

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	2386	10.33%				
4. そう思う	8277	35.84%				
3. どちらともいえない	7930	34.33%				
2. そう思わない	3073	13.31%				
1. まったくそう思わない	1430	6.19%				
サンプル数 (%ベース)	23096	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他 / 無効	59		3.31	1.81	4.40	

上記(8)で先生の授業の準備を認めた学生諸君だが、必ずしも内容の理解ができているわけではないことを示している。このグラフの分布状況は(3)の理解度チェック(4)の説明の仕方と似ており、相関がありそうである。理解できるかどうかは教員の努力だけでは難しく、学生諸君の意欲も大きい。「理解できない」を示す1~2番合計が約20%、つまり5人に一人は「授業が分からない」のである。授業のレベルを全員の学生に合わせることはできない。わからない、理解できないところがあれば、そのまましておかず授業が終わったら早めに先生にたずねる、基礎教育支援センターをたずねる、友達にたずねる、等して追いつく努力をしよう。

(10) 授業内容に刺激を受けたり、新たな興味がわいてくる

カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5. 強くそう思う	1927	8.34%				
4. そう思う	5799	25.09%				
3. どちらともいえない	9889	42.78%				
2. そう思わない	3552	15.37%				
1. まったくそう思わない	1947	8.42%				
サンプル数 (%ベース)	23114	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他 / 無効	41		3.10	1.92	4.48	

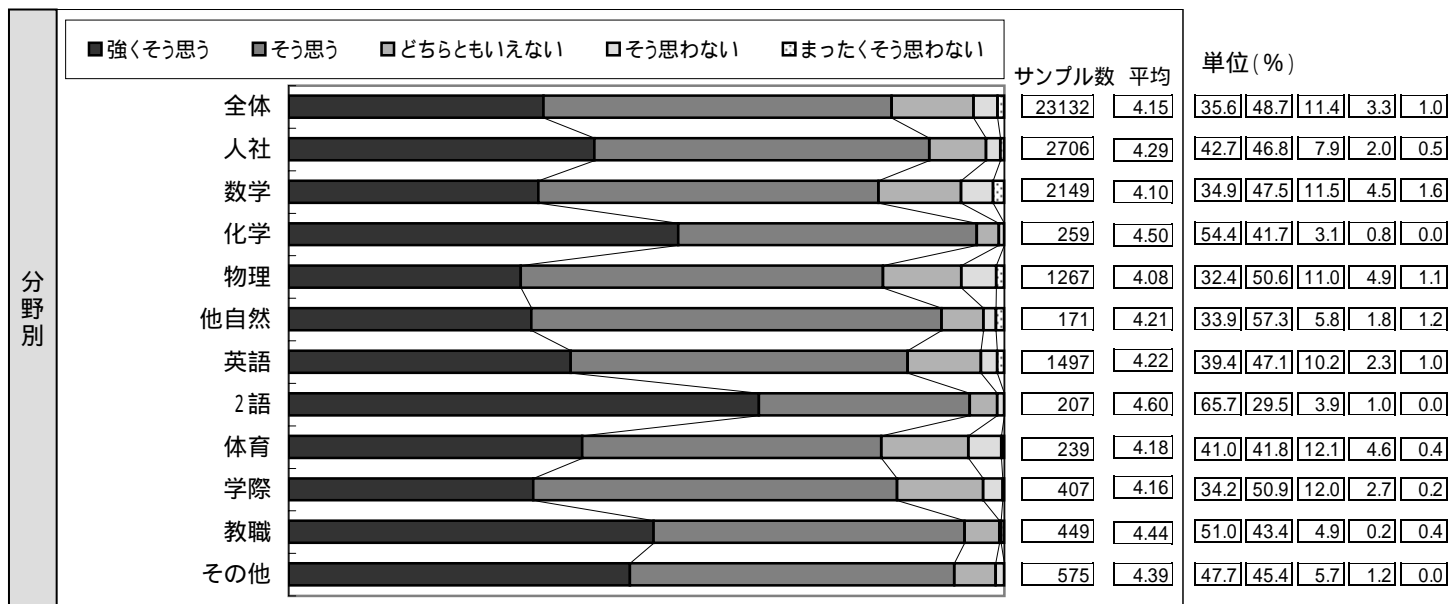
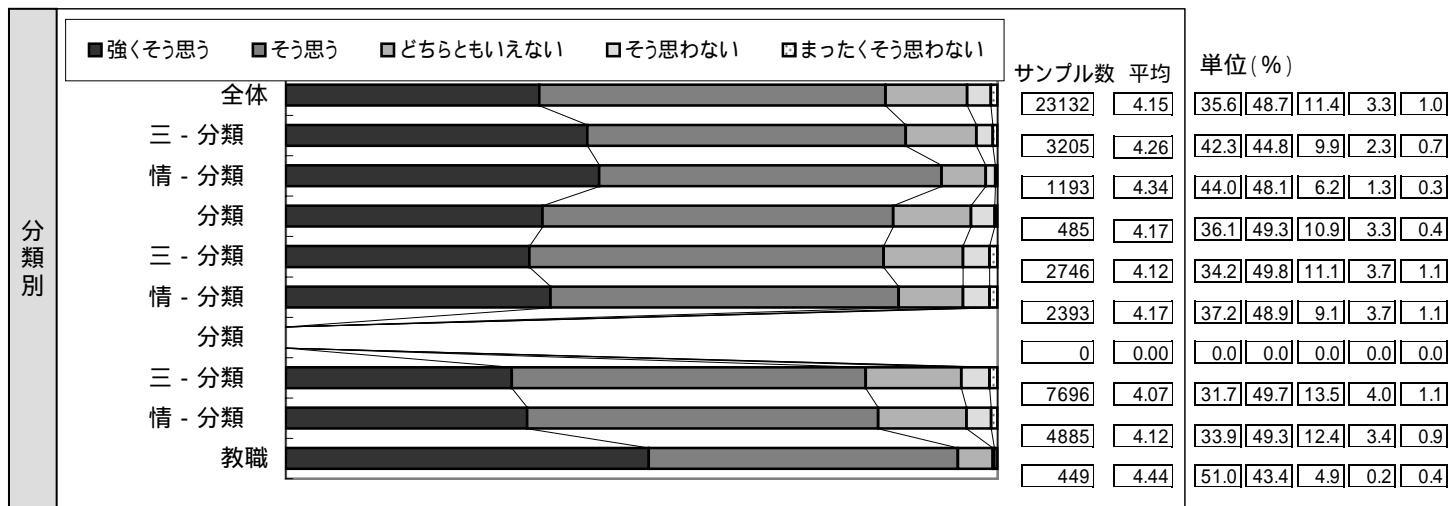
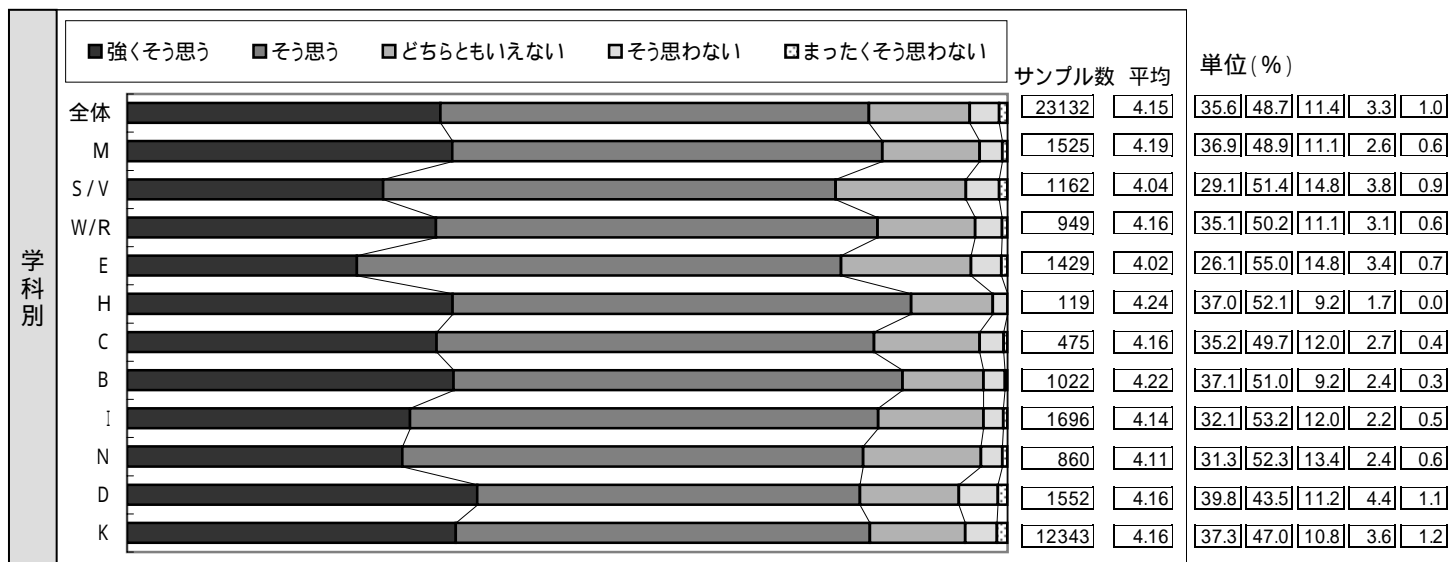
「刺激を受ける」「興味がわく」ということは、真に内容を理解していて初めて起ることである。教員の授業に対する熱意と、学生の学ぼうとする意欲が一致していたことを示す。4~5番を合わせた約33%、つまり3人に1人は授業に積極的に参加し、良い影響を受けているといえる。1~3番は教員の熱意あるいは学生の意欲のどちらか、あるいは両方が欠けていたことを示す。一般的に基礎的な科目は淡々とした授業が多く、刺激を受けて「もっと学びたい」という意欲はわきづらいといわれる。授業を意義あるものにするにはこの評価を良くすることであり、学生・教員とも努力する価値のあるところである。

(11)総合的に判断して、この授業に満足している

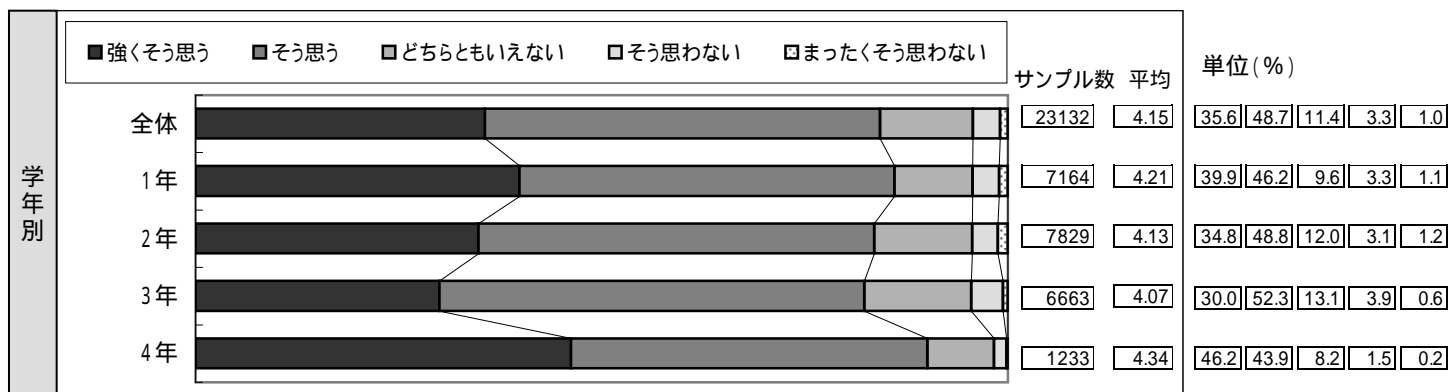
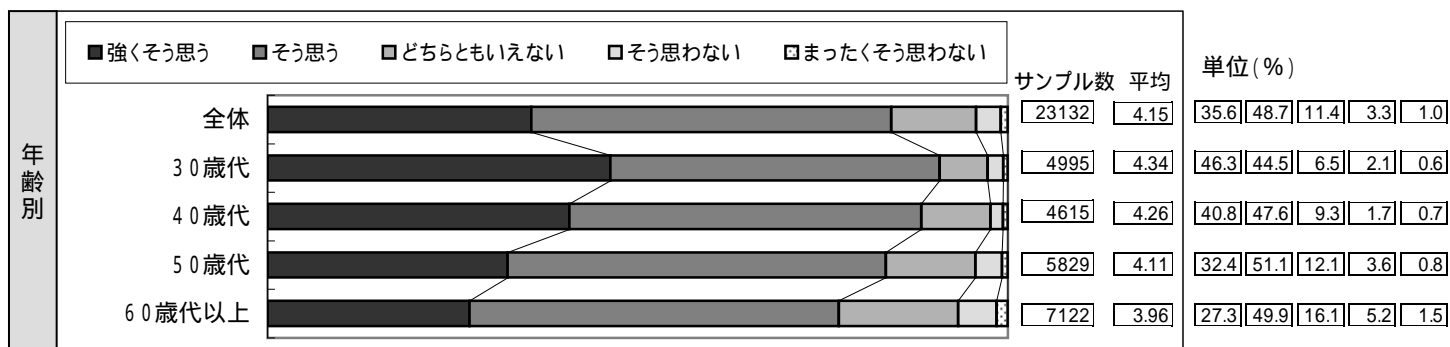
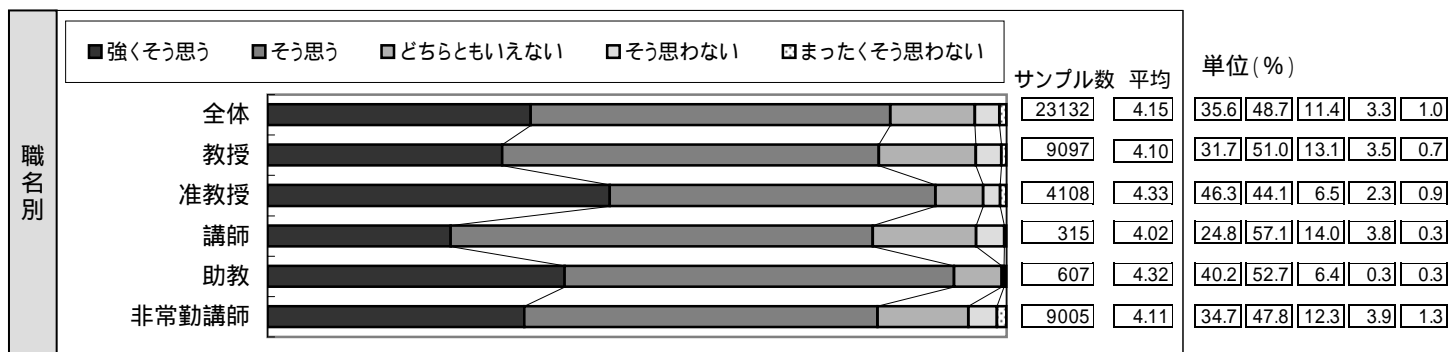
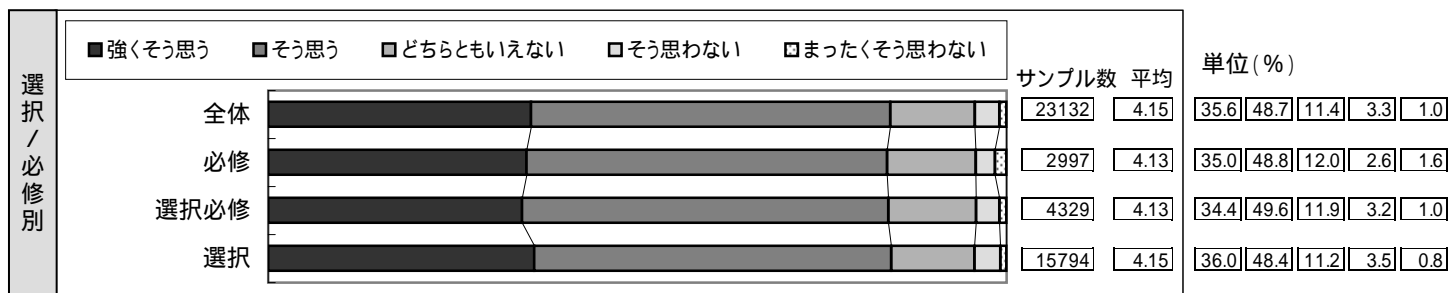
カテゴリ	全体件数	全体 (%)	0%	25%	50%	75%
5.強くそう思う	2866	12.40%				
4.そう思う	8653	37.44%				
3.どちらともいえない	7978	34.52%				
2.そう思わない	2457	10.63%				
1.まったくそう思わない	1156	5.00%				
サンプル数(%ベース)	23110	100.00%	ポイント Ave.	ポイント Min.	ポイント Max.	
その他/無効	45		3.42	1.92	4.74	

授業に対する総合評価である。設問項目(1)～(10)の積み重ねの結果ともいえる。「満足」を示す4～5番が50%、2人に1人は満足しているといえる。その一方で「満足していない」が1～2番合計16%、6人に1人は何らかの不満を持っていることになる。自由記述欄と組み合わせて検討する必要がある。全体の分布の形は(4)「説明の仕方」に似ており、判断材料の一つになっているようである。3番の「どちらともいえない」すなわち「可もなし、不可もなし」と思っている学生も3人に1人いる。

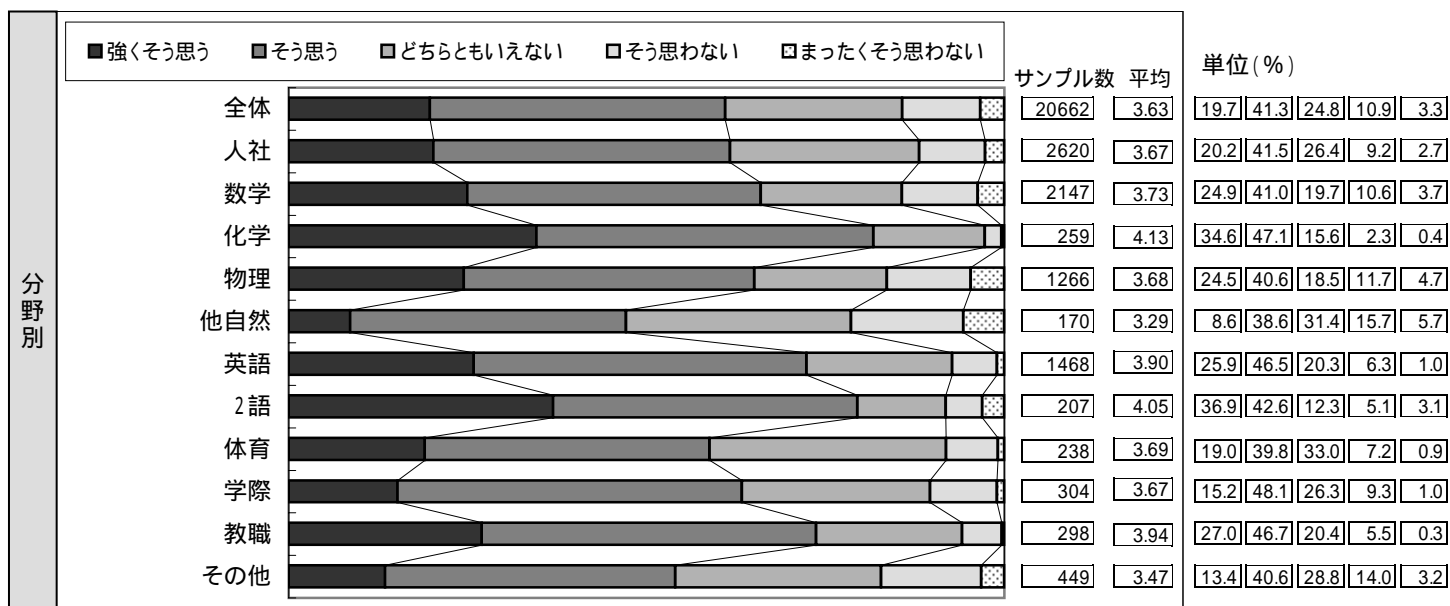
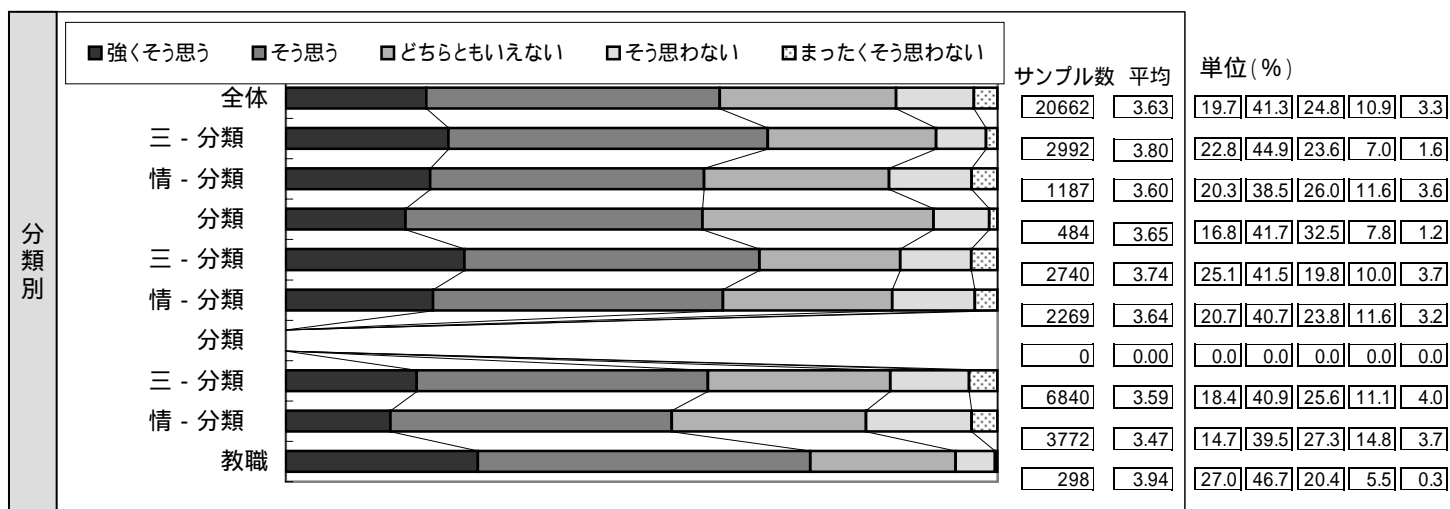
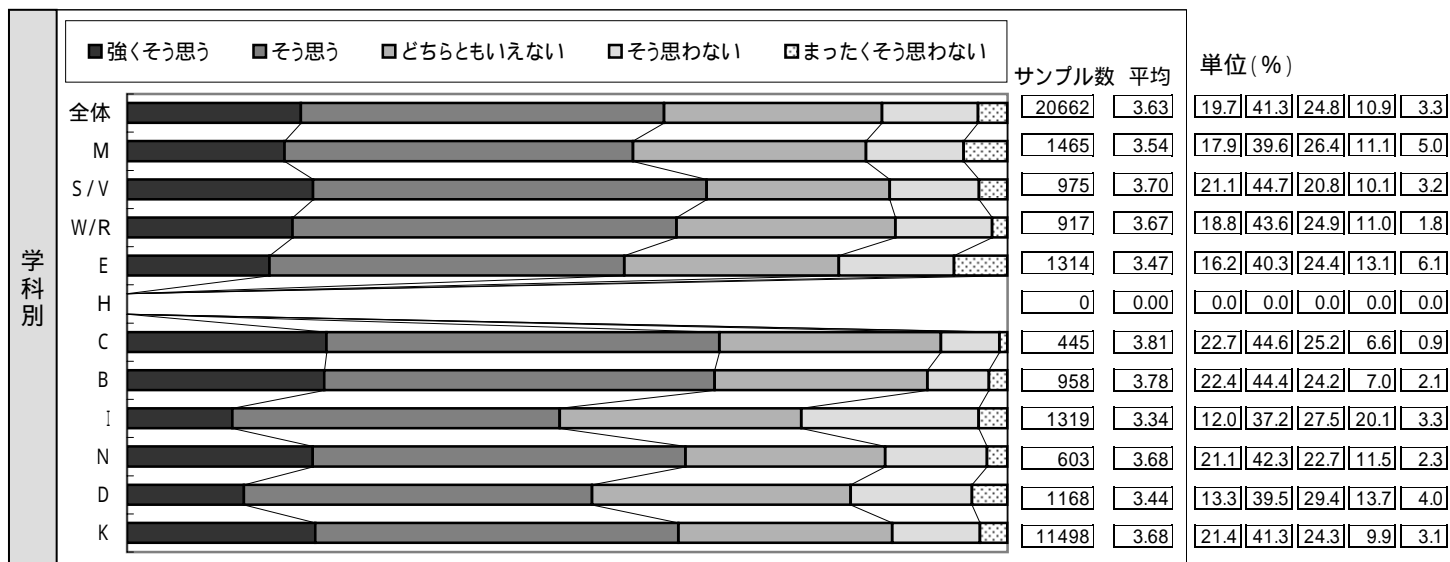
(1) 先生の声(マイクを含めて)は聞こえる



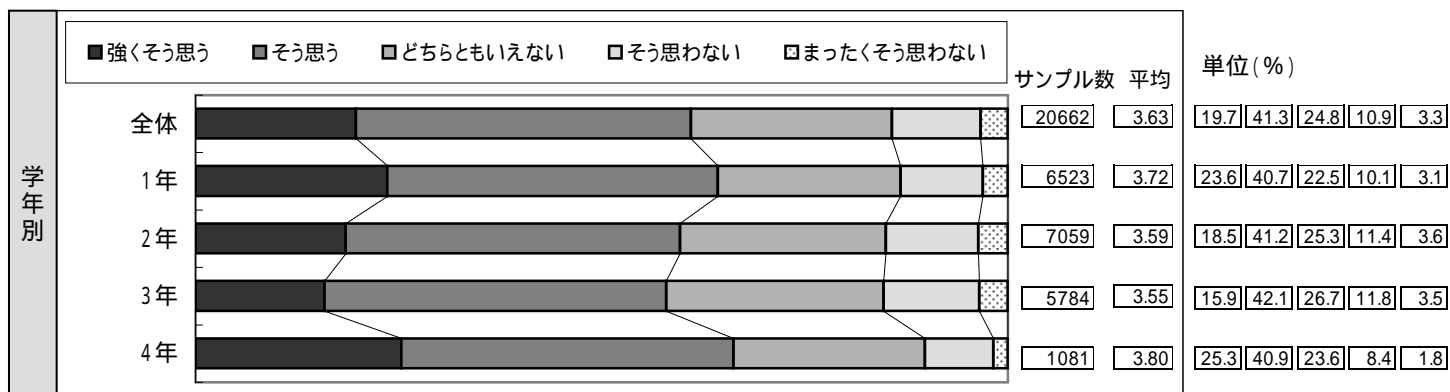
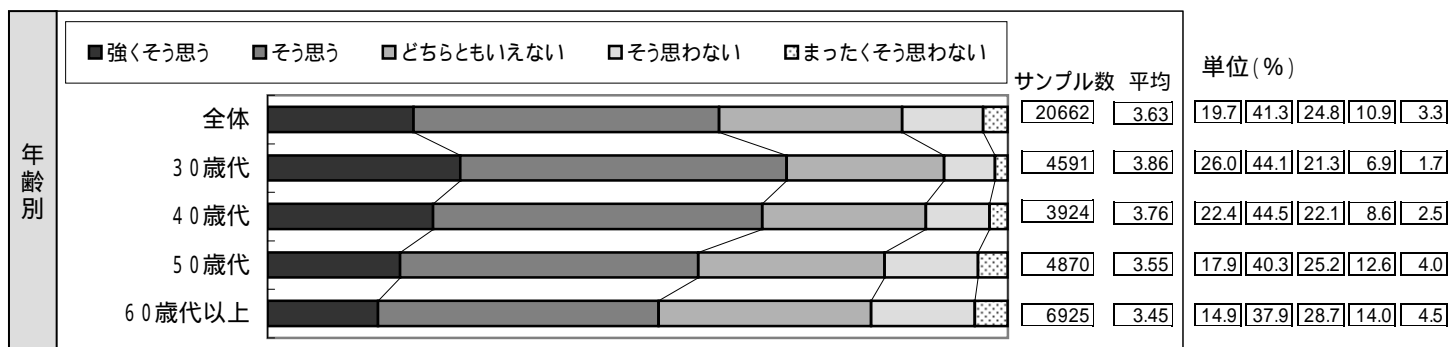
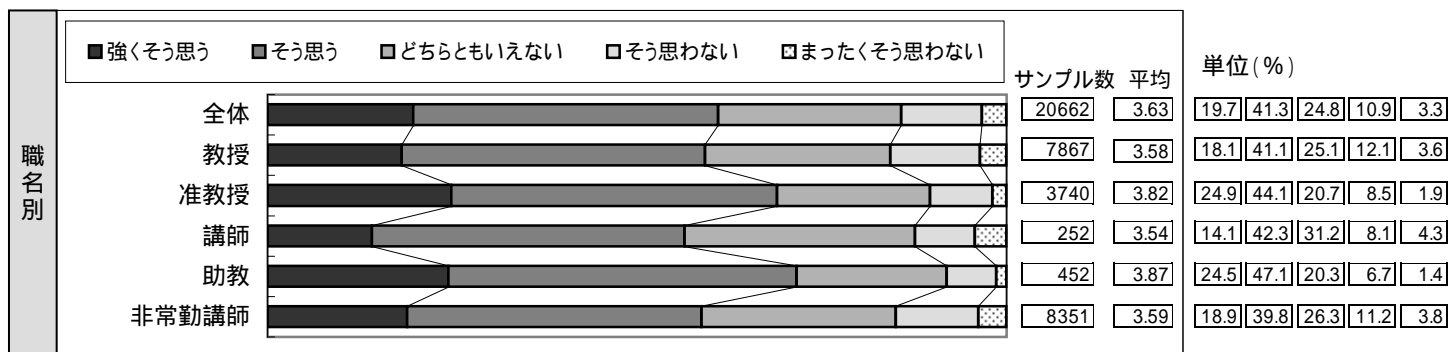
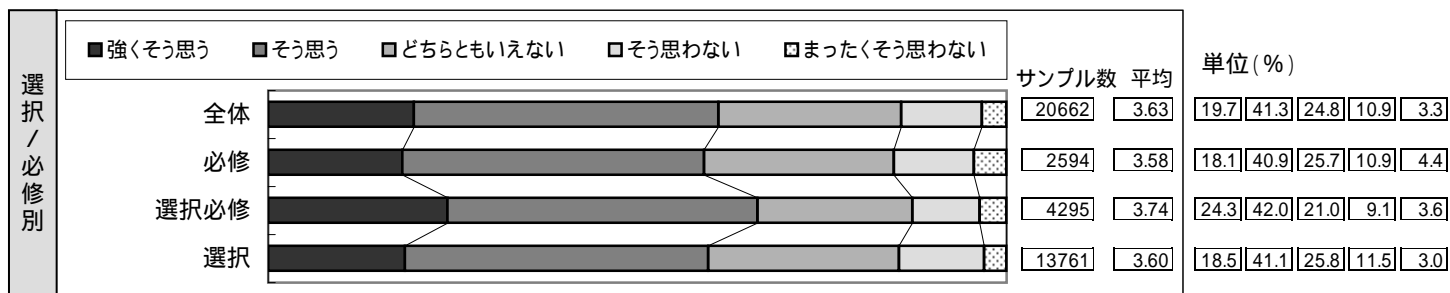
(1) 先生の声(マイクを含めて)は聞こえる



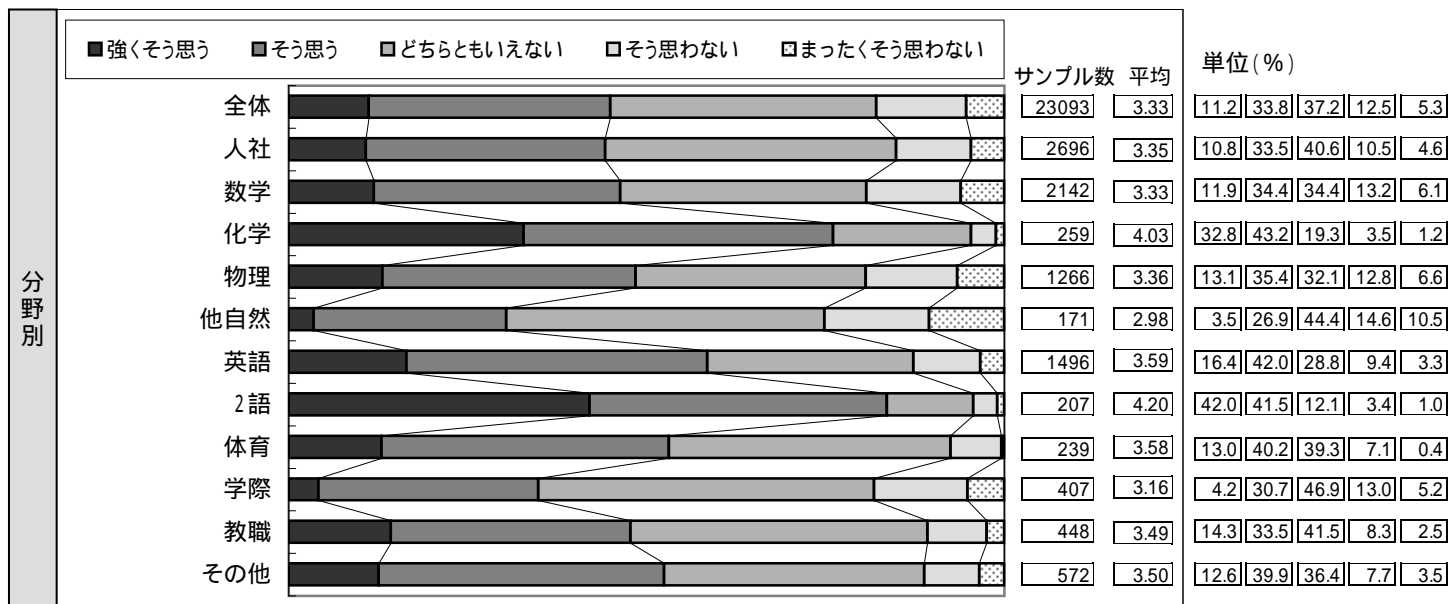
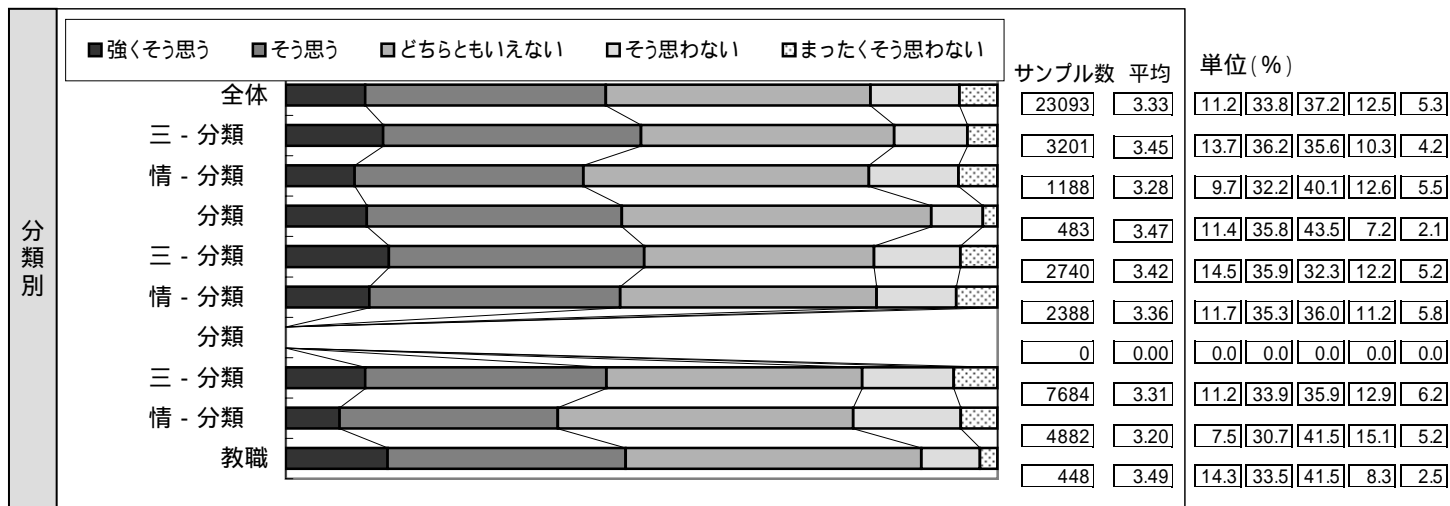
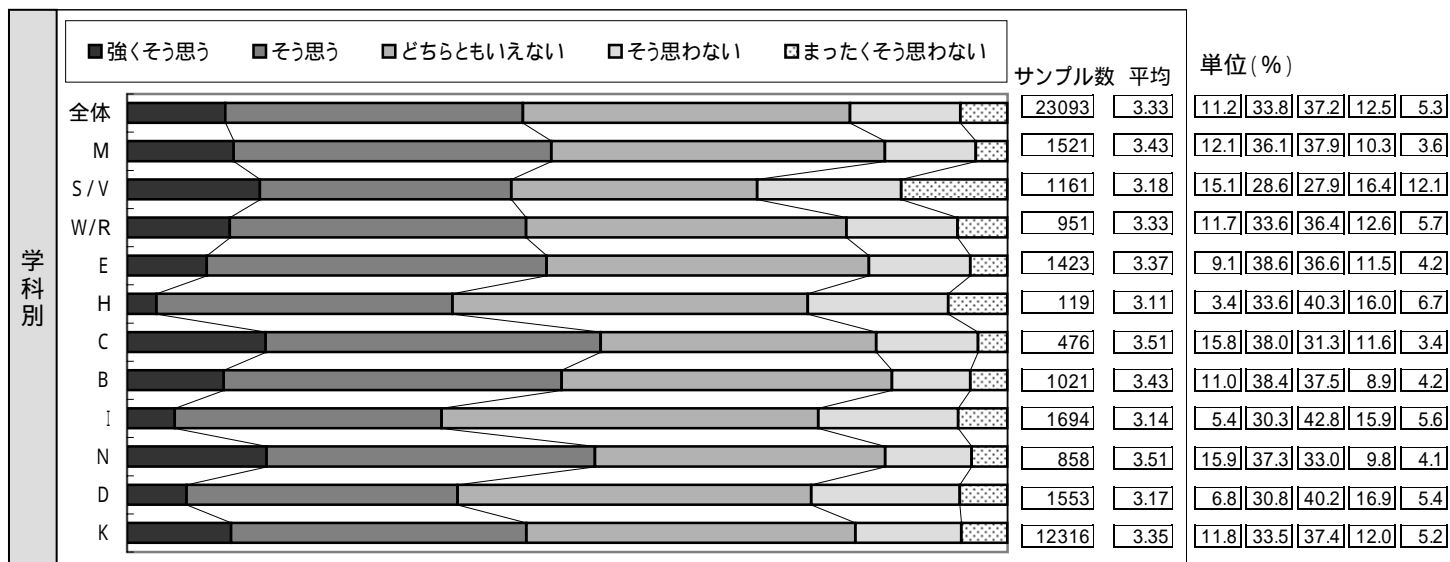
(2) 黒板の字はよく読める



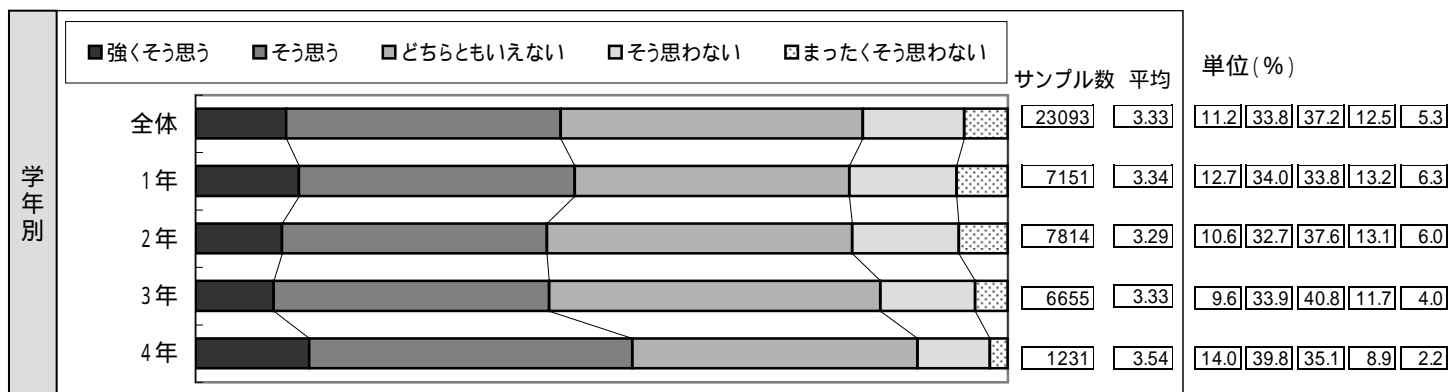
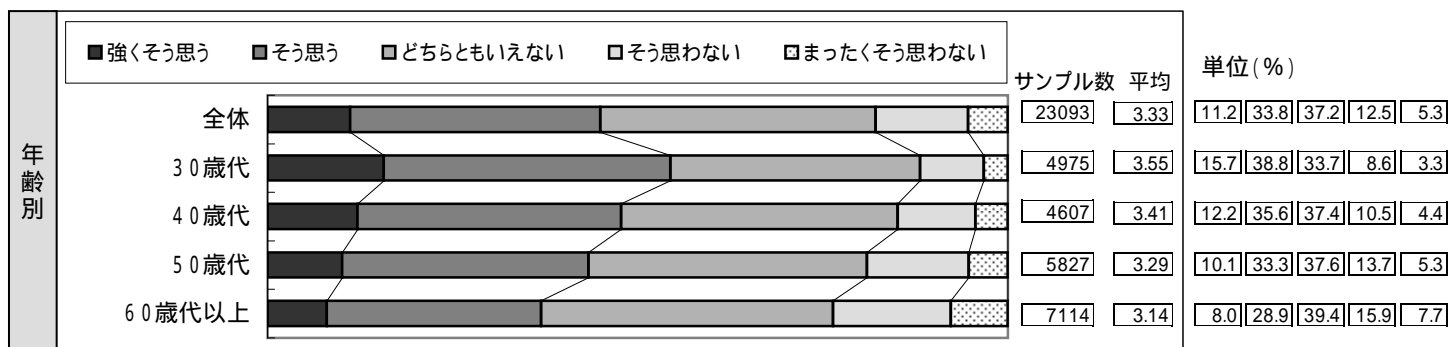
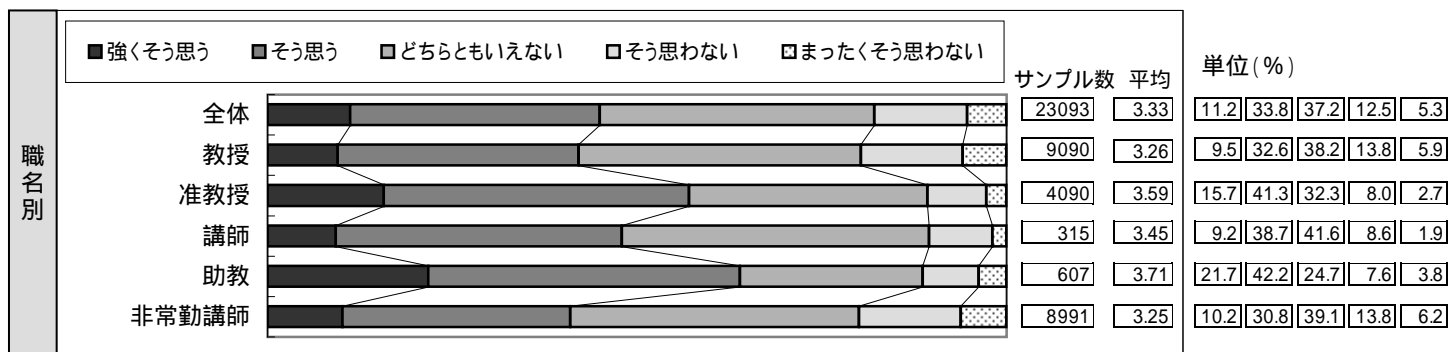
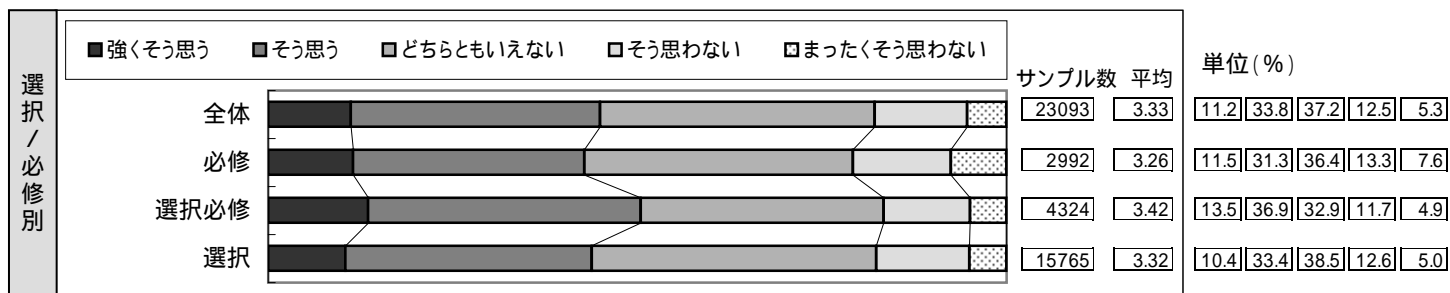
(2) 黒板の字はよく読める



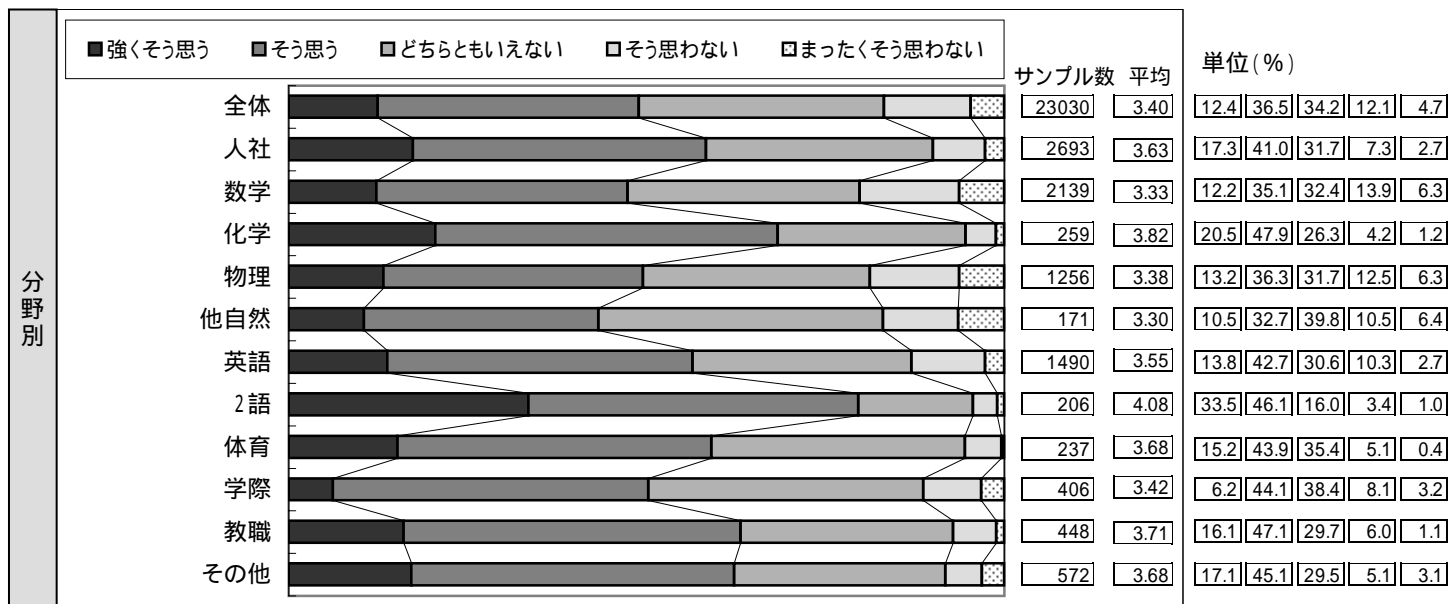
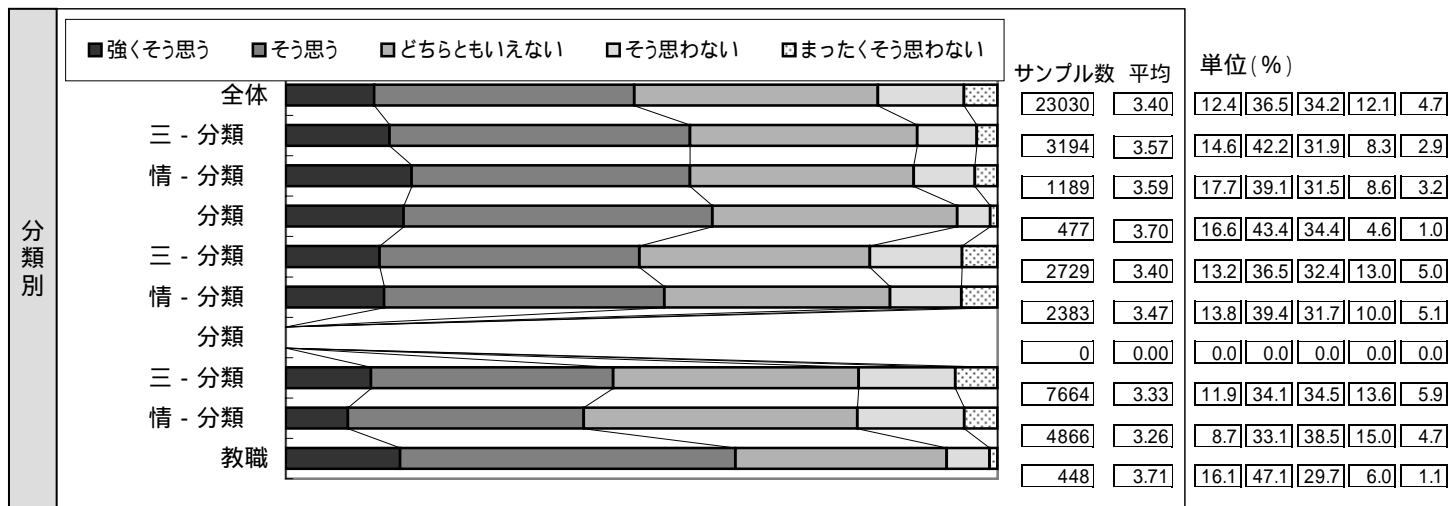
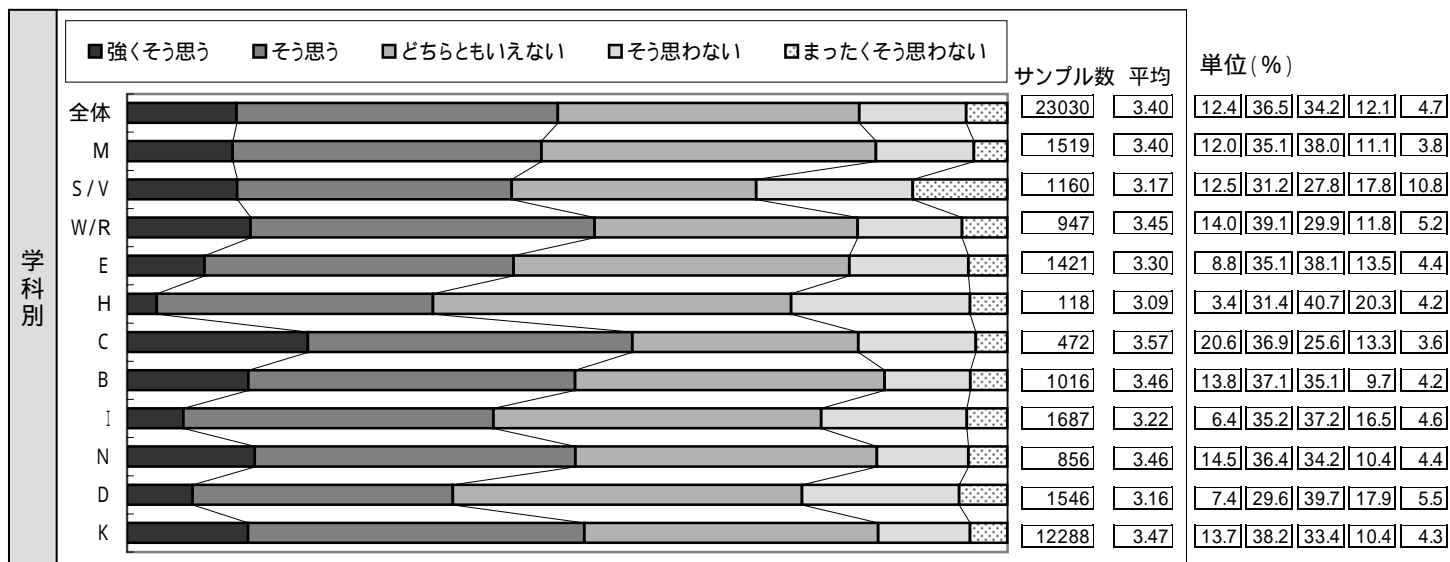
(3) 先生は学生の理解度を確かめながら授業を進めている



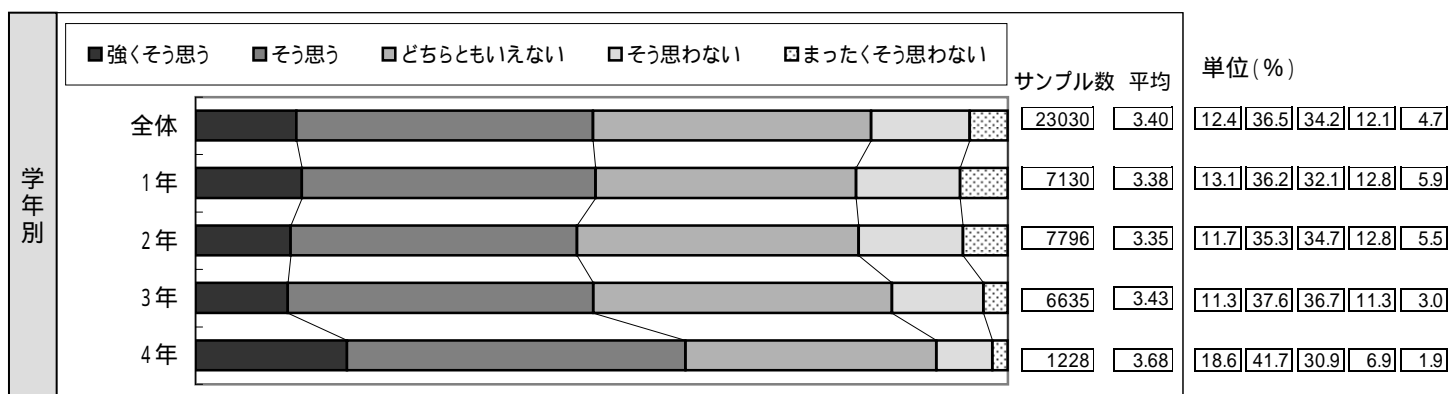
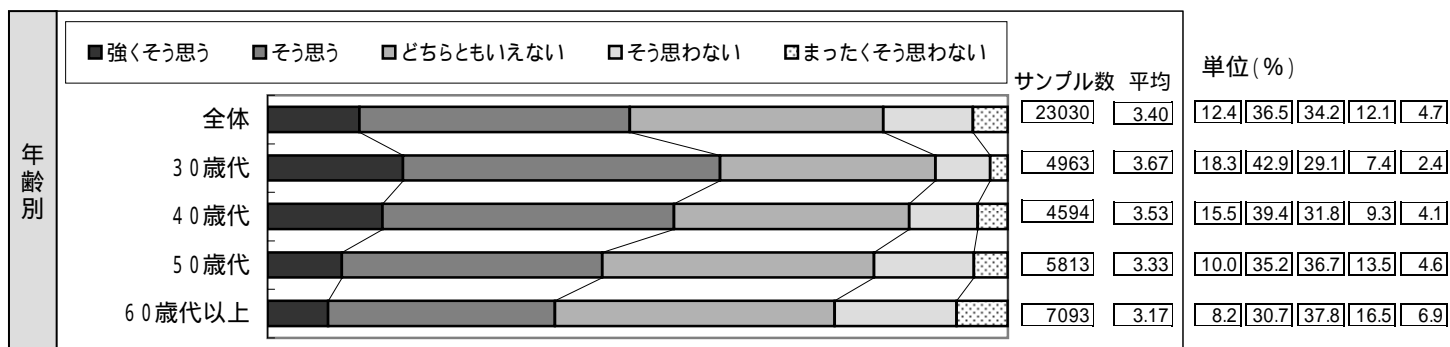
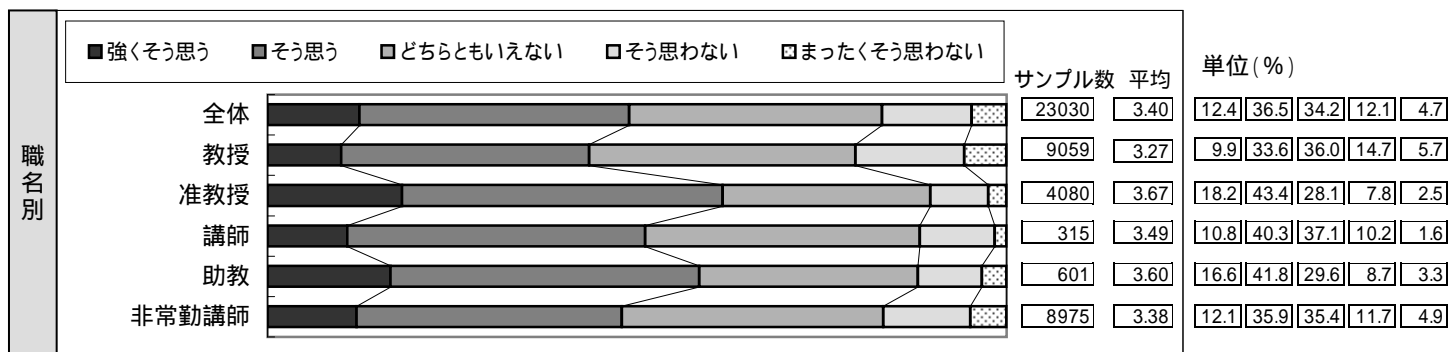
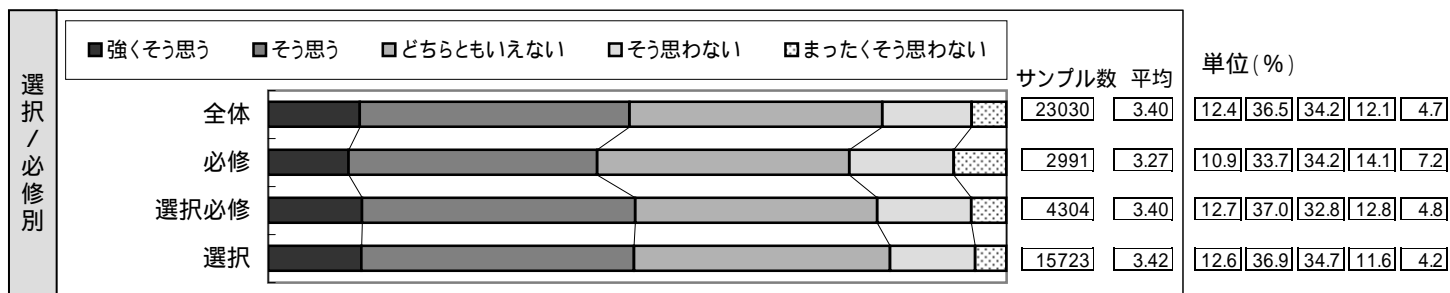
(3) 先生は学生の理解度を確かめながら授業を進めている



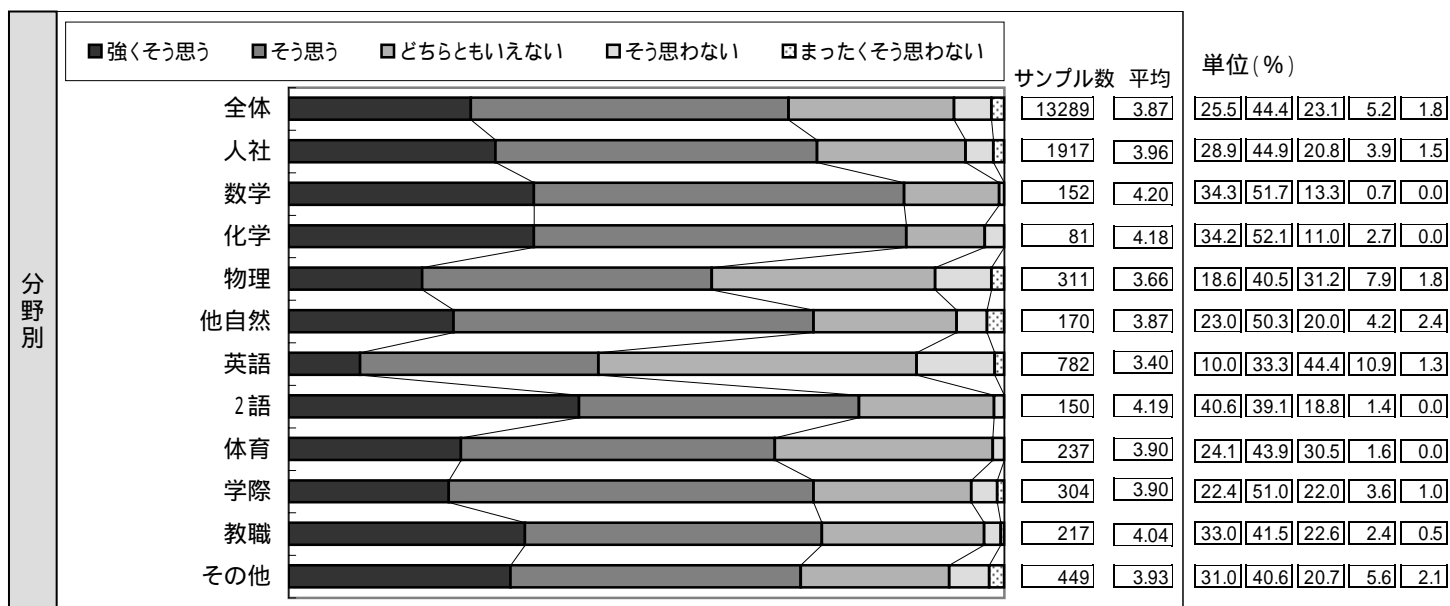
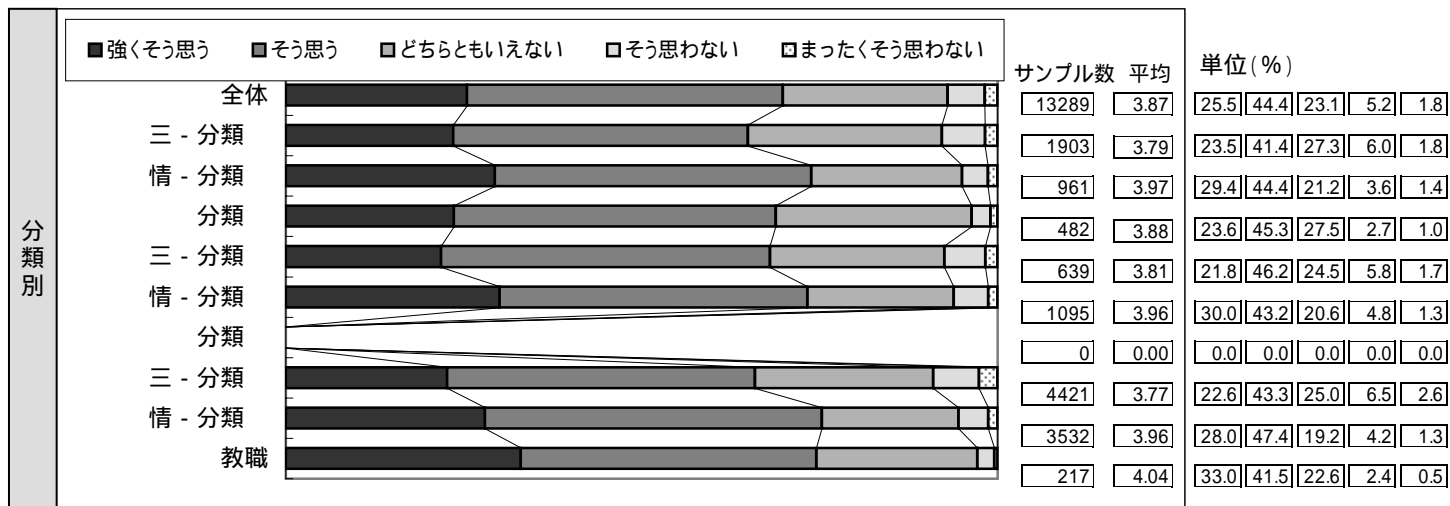
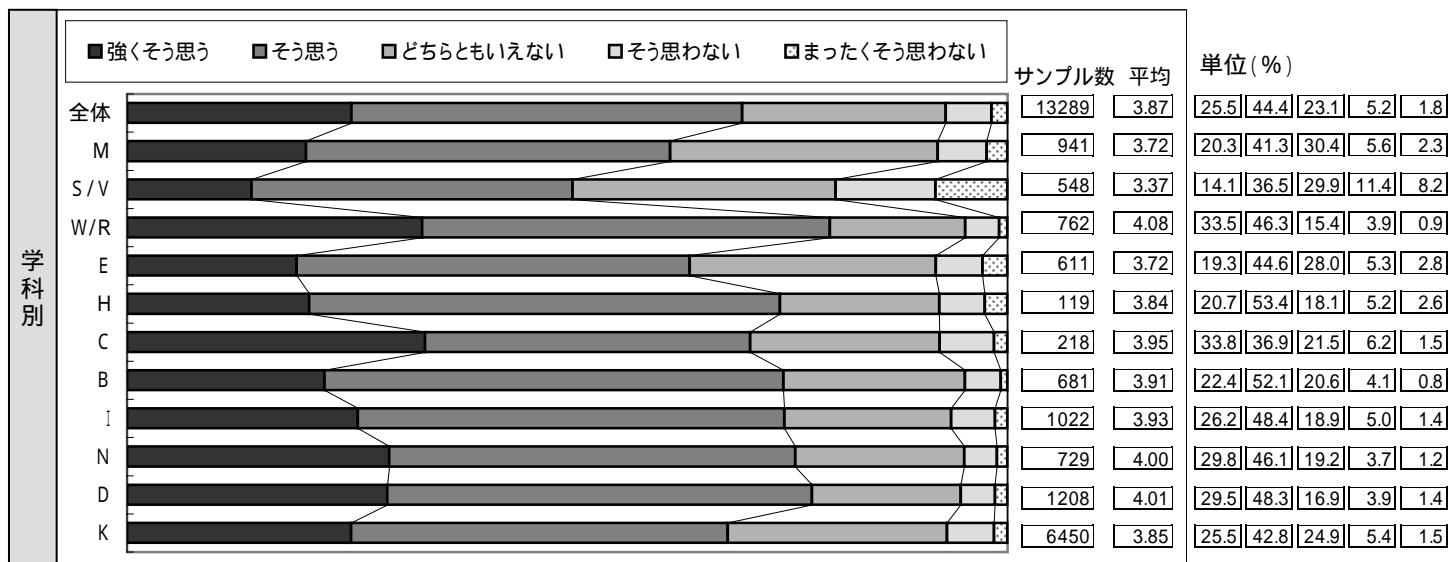
(4) 説明の仕方はわかりやすい



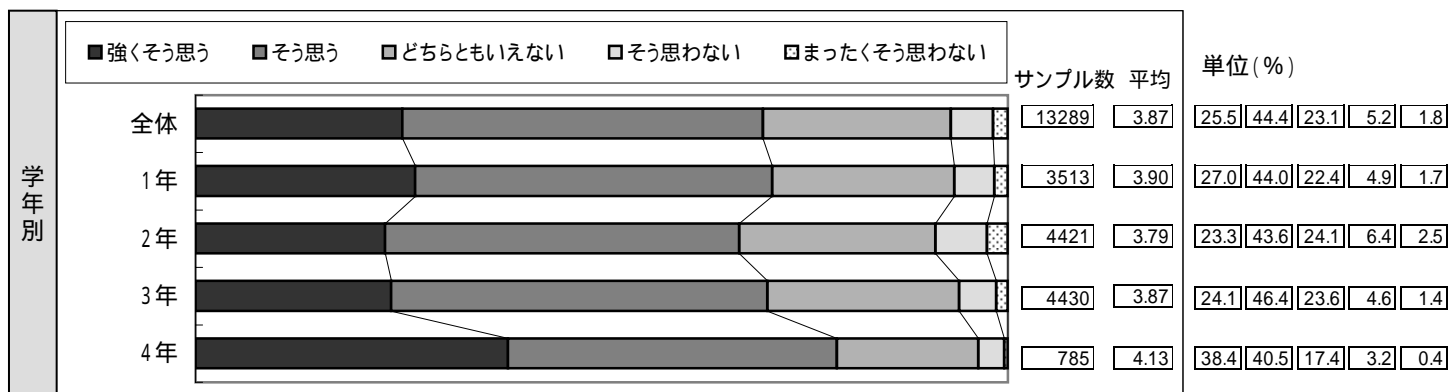
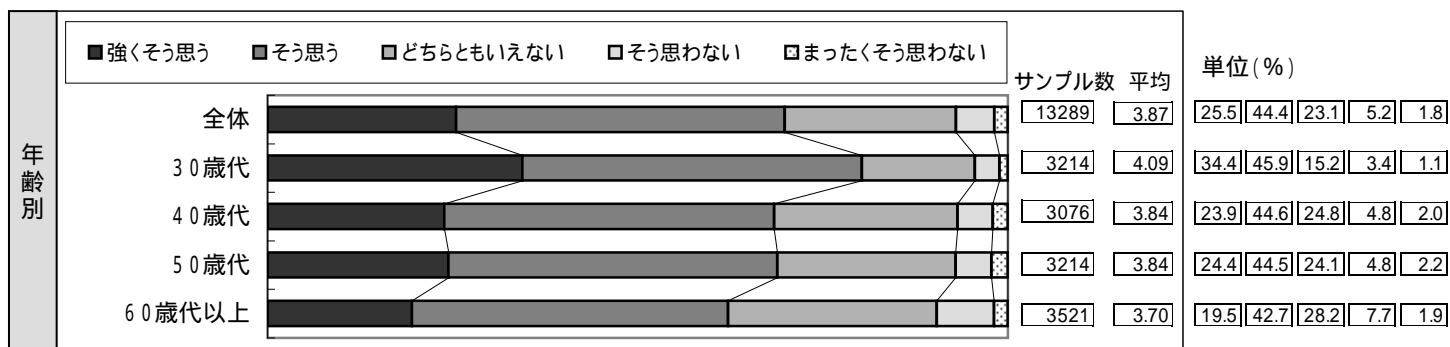
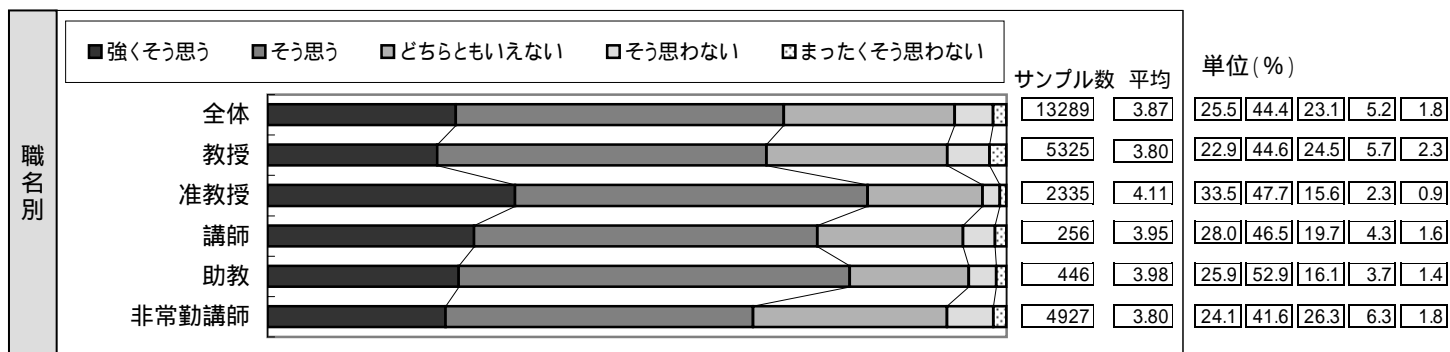
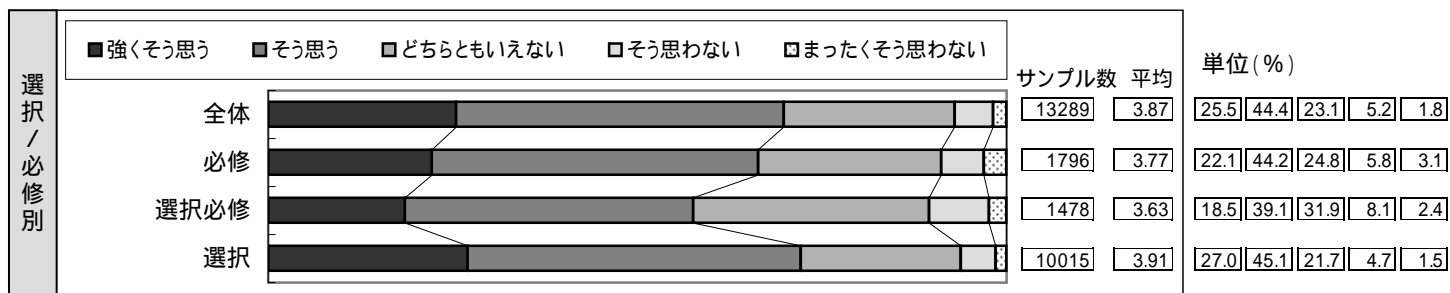
(4) 説明の仕方はわかりやすい



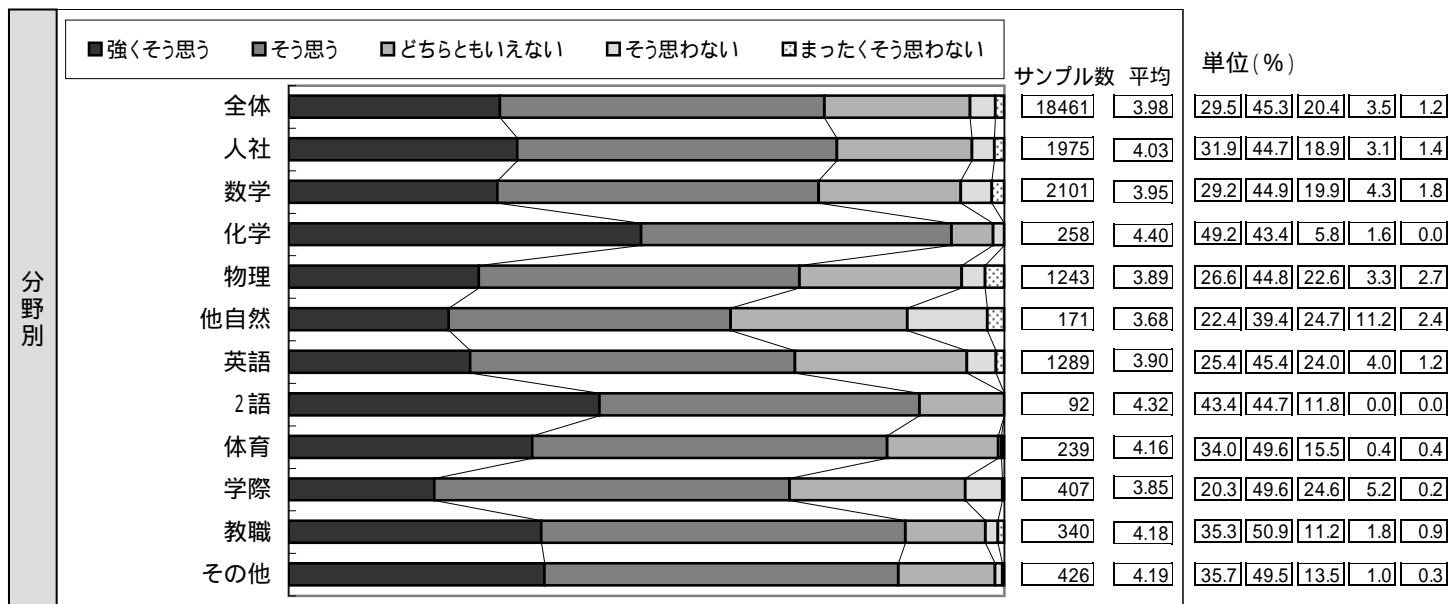
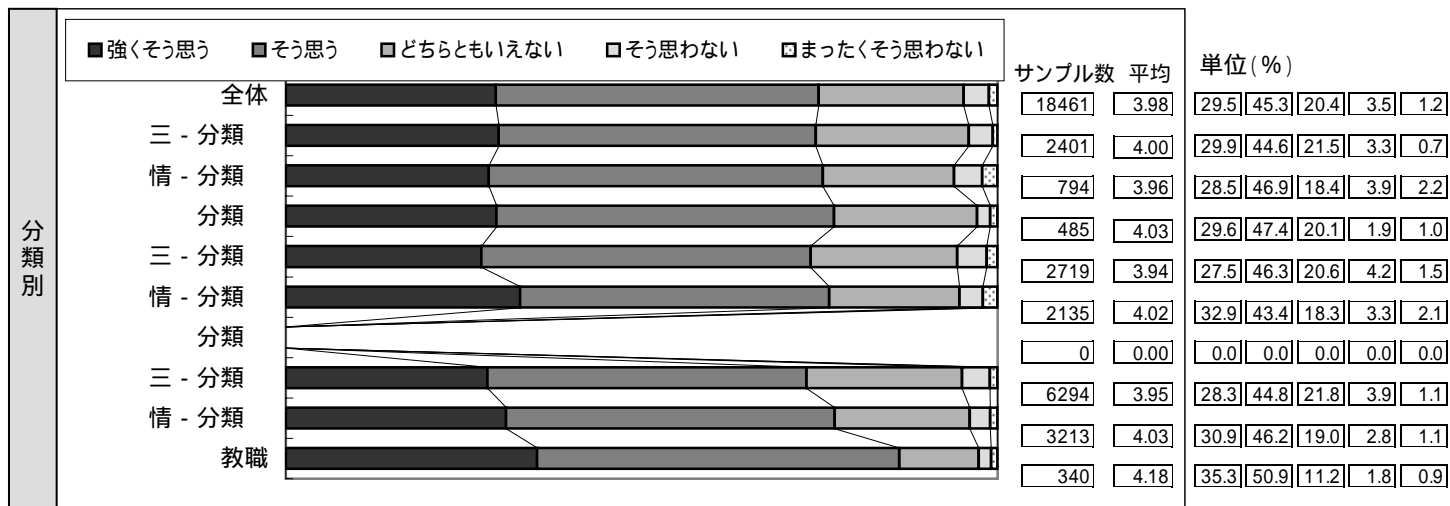
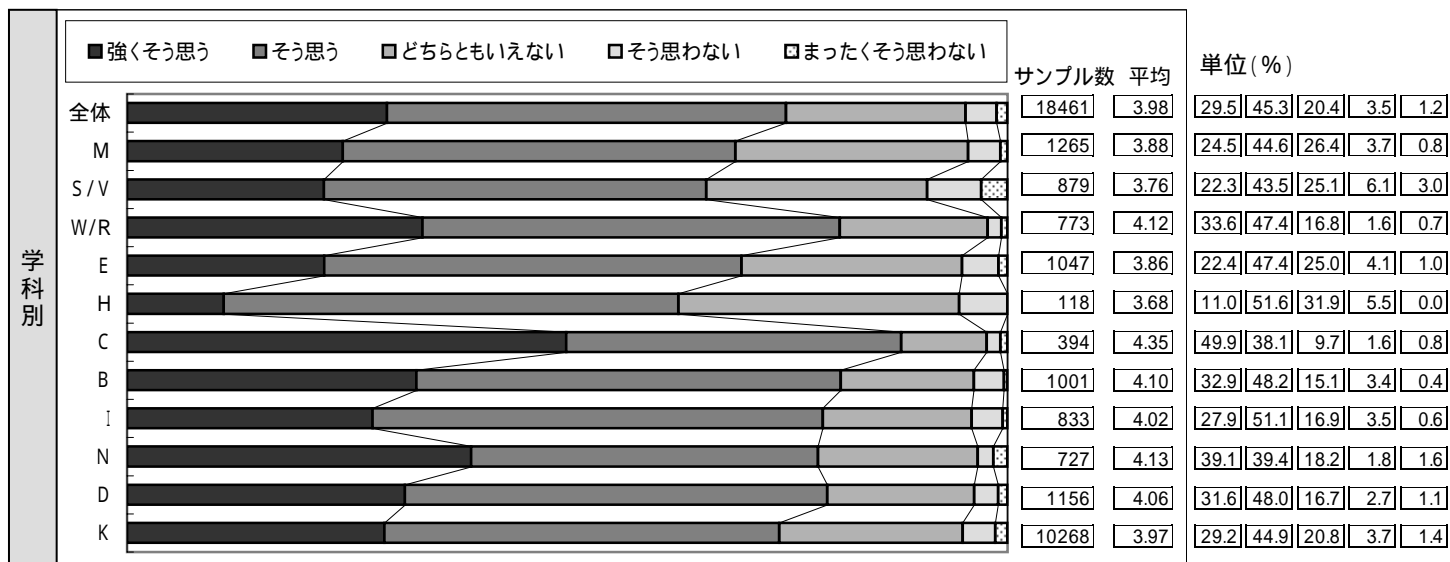
(5) パワーポイント、ビデオ、カセット等の視聴覚機器は授業の理解に役立つ



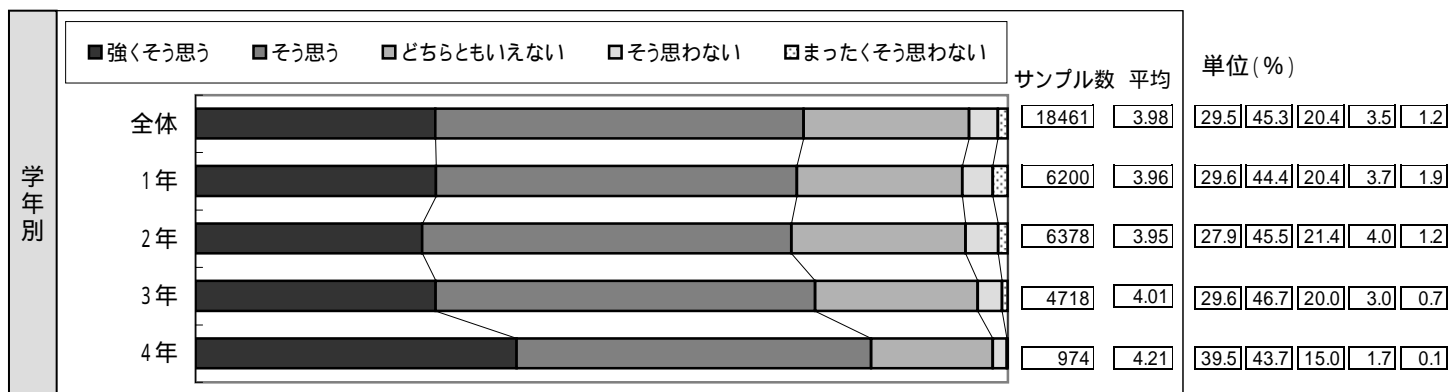
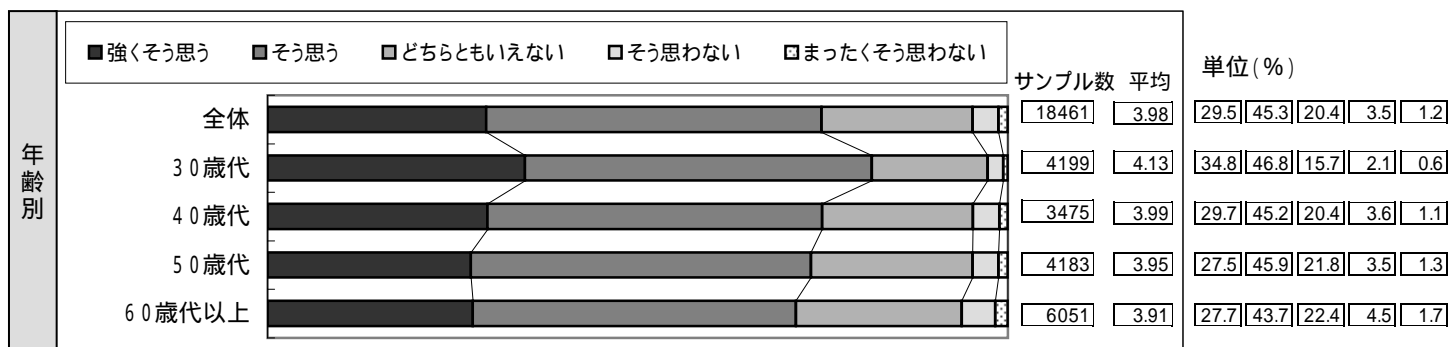
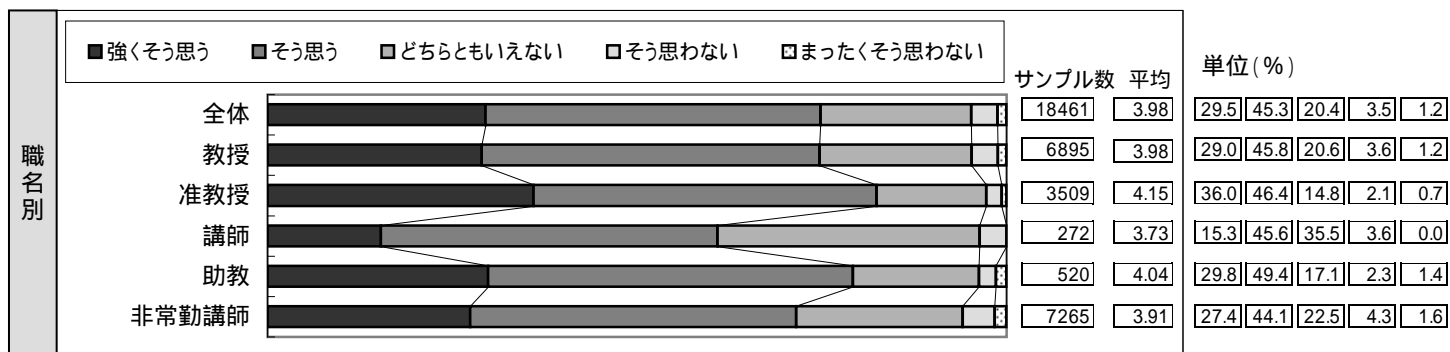
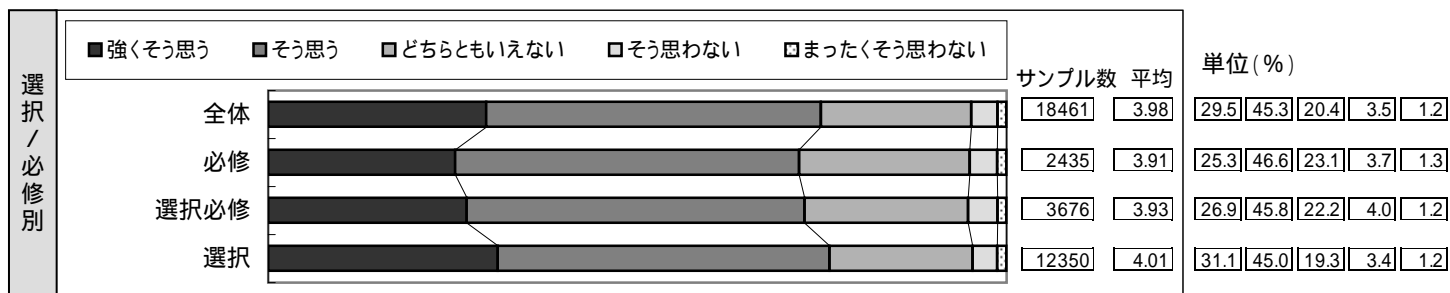
(5) パワーポイント、ビデオ、カセット等の視聴覚機器は授業の理解に役立つ



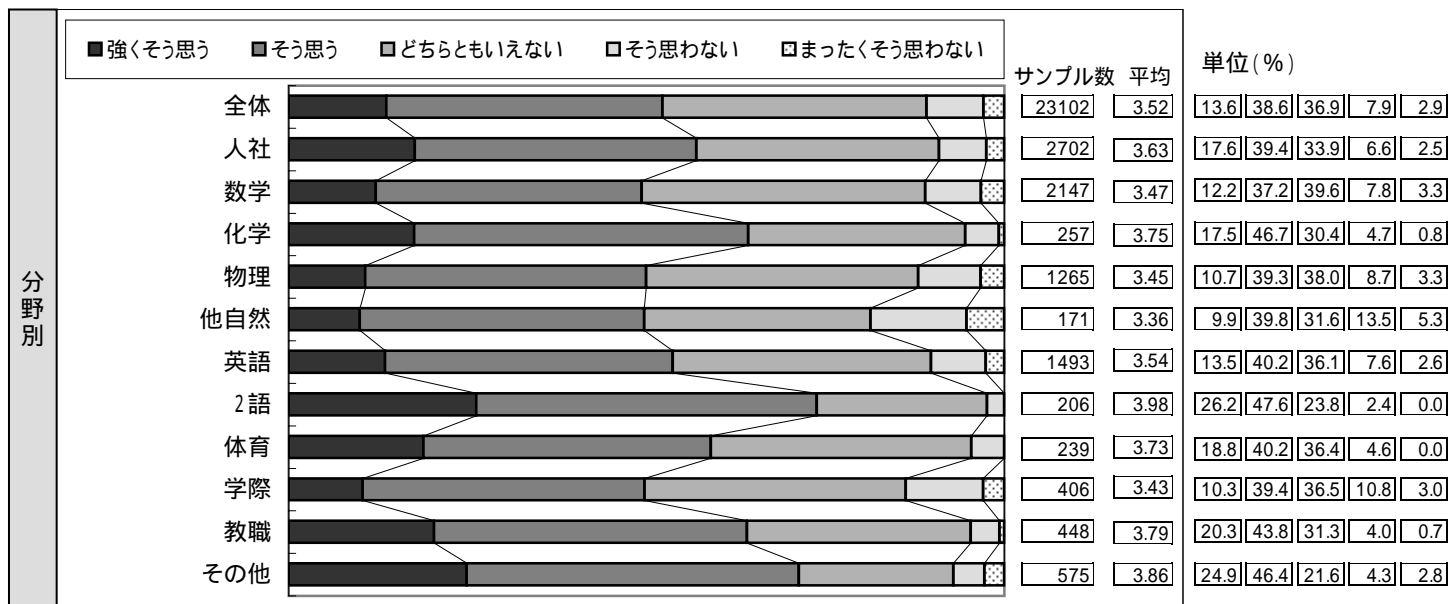
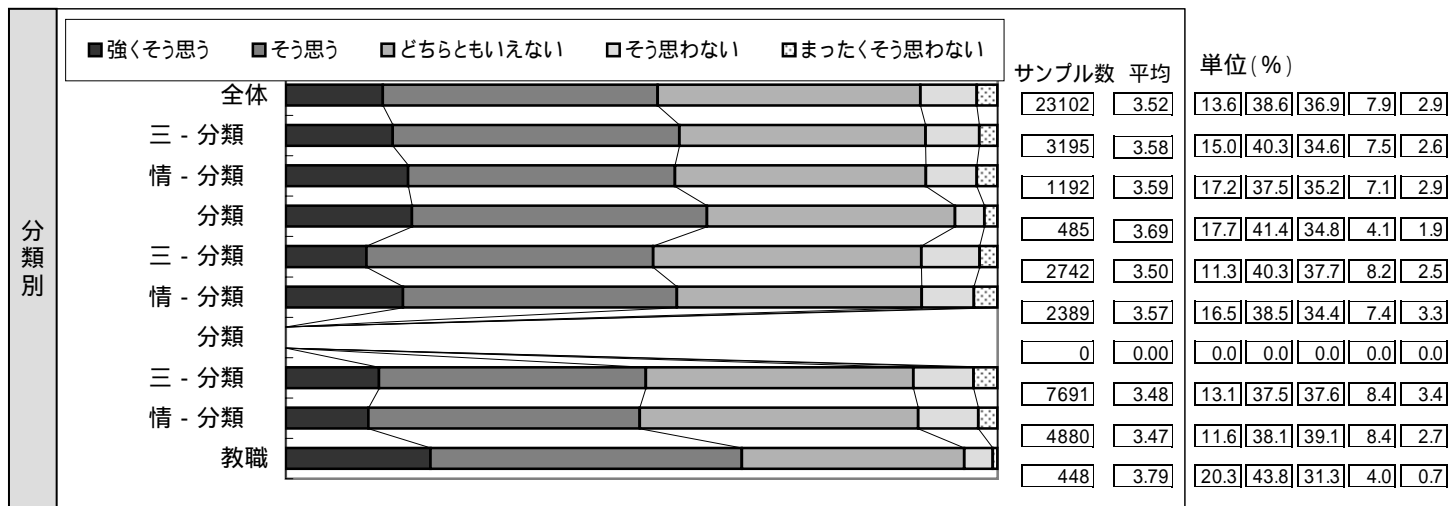
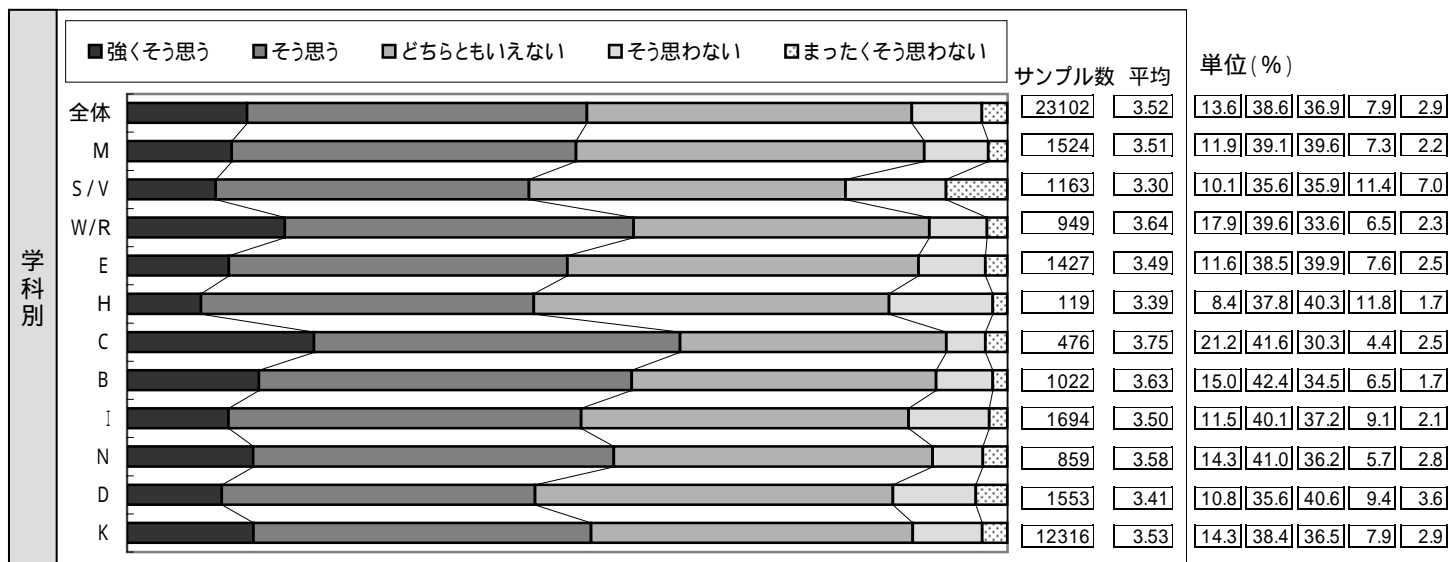
(6) プリント等の配布資料は授業の理解に役立つ



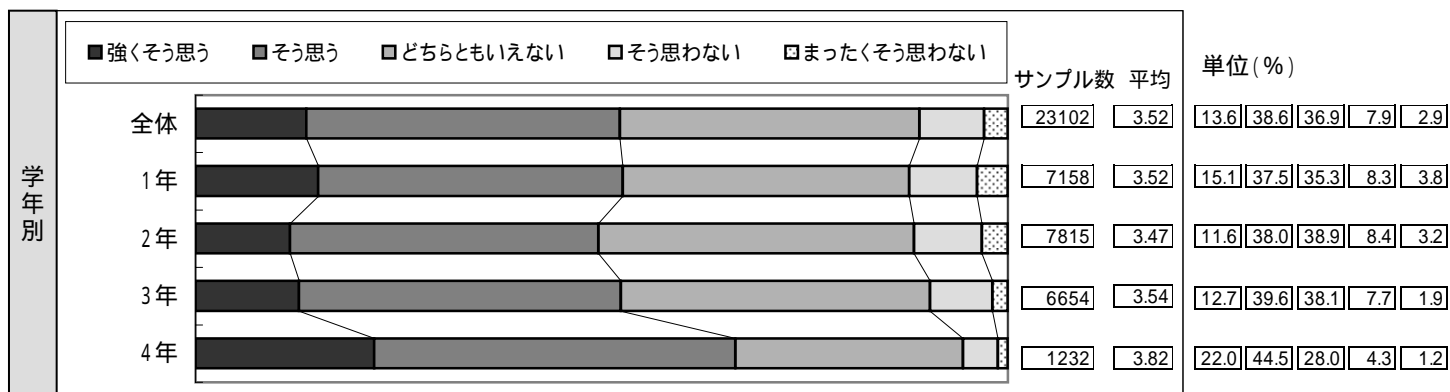
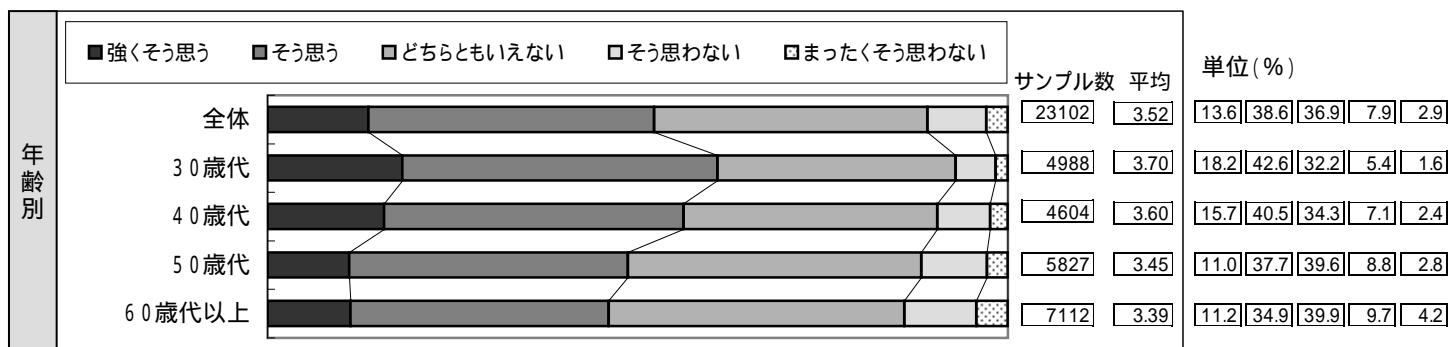
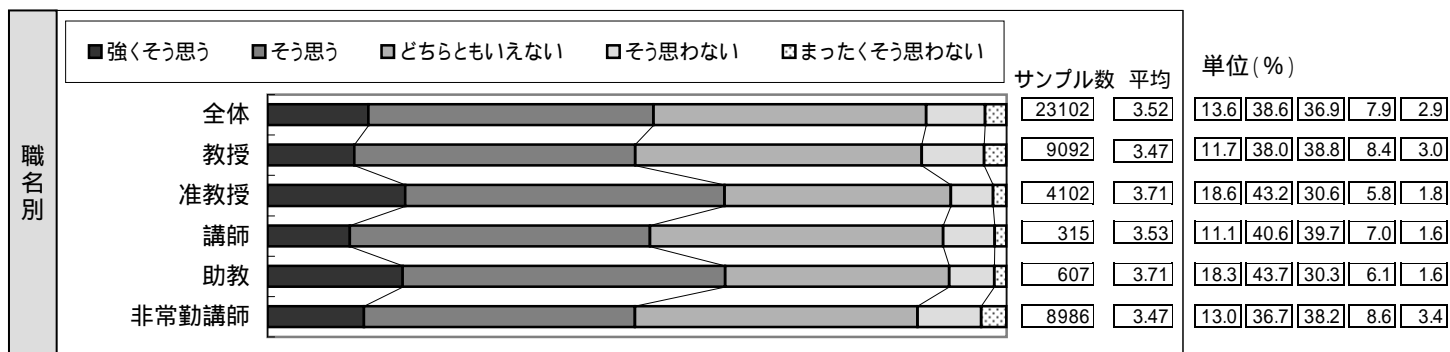
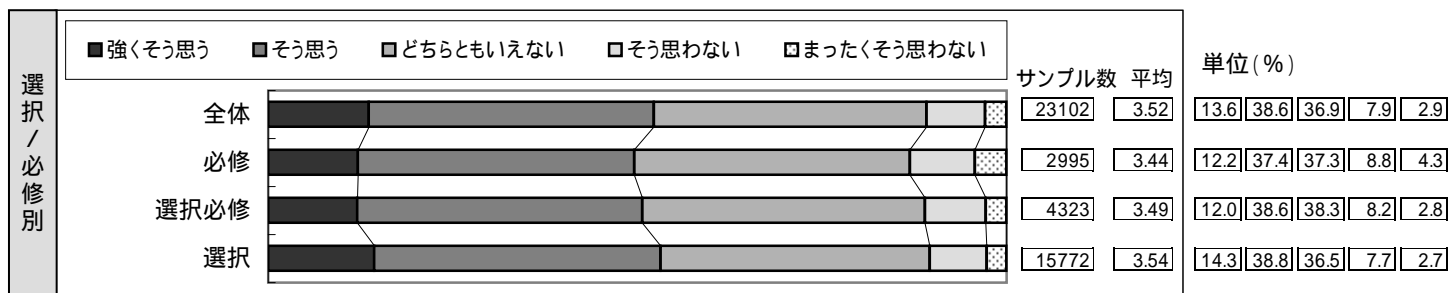
(6) プリント等の配布資料は授業の理解に役立つ



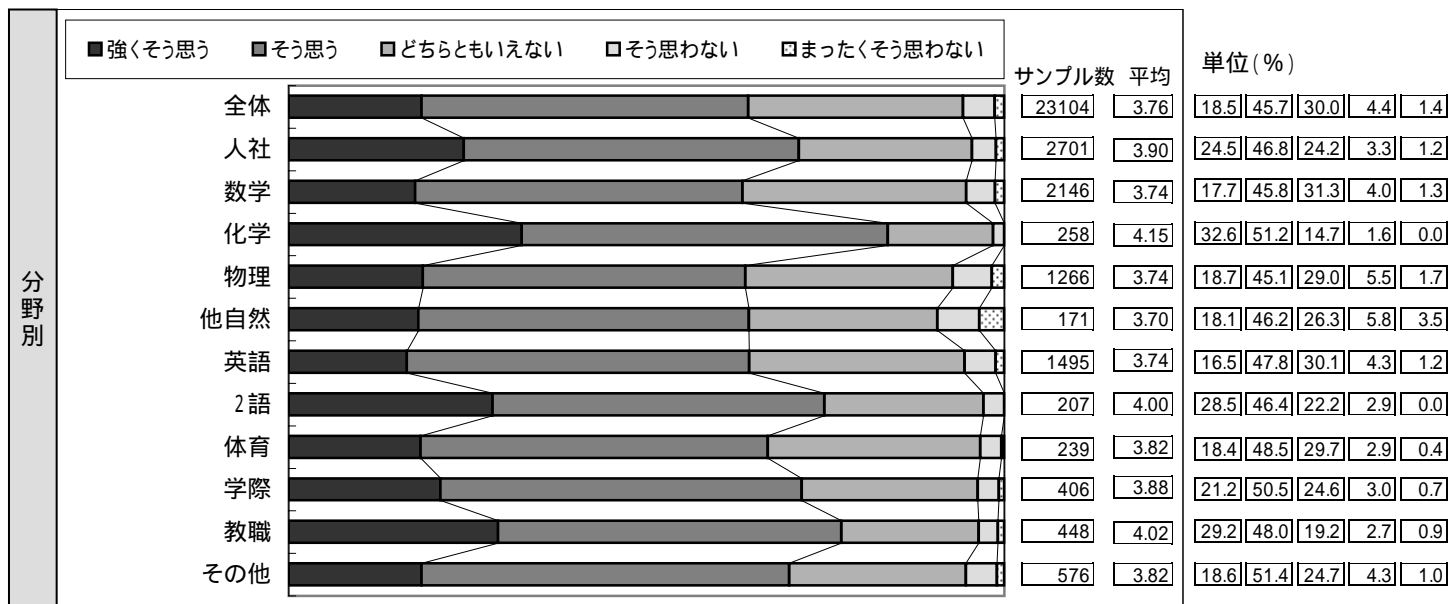
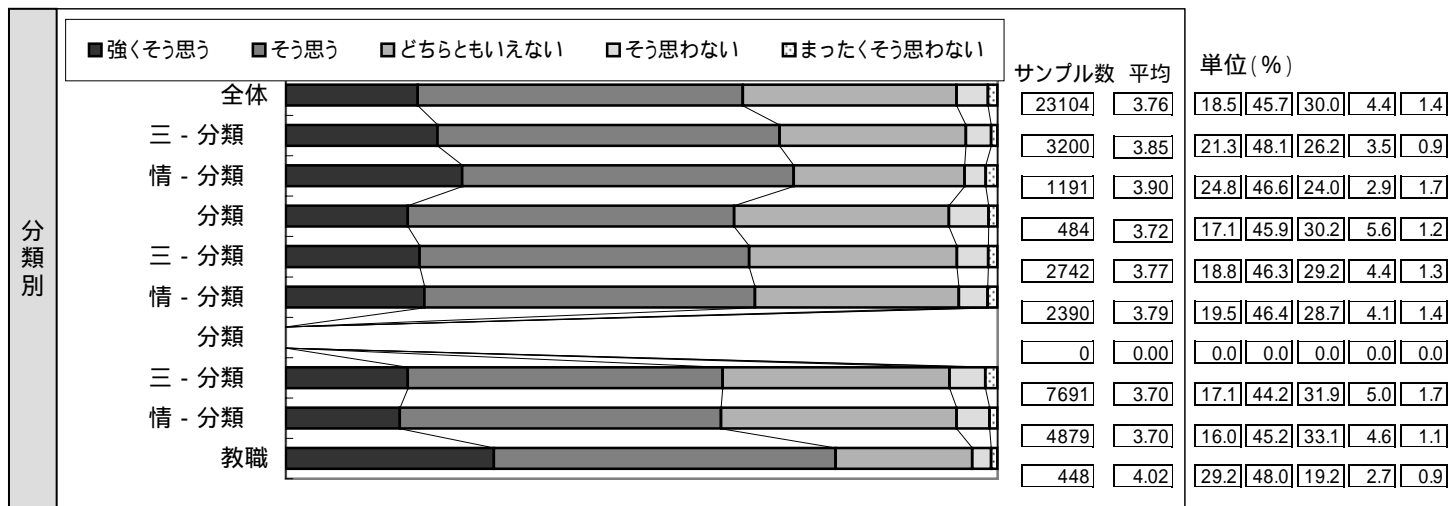
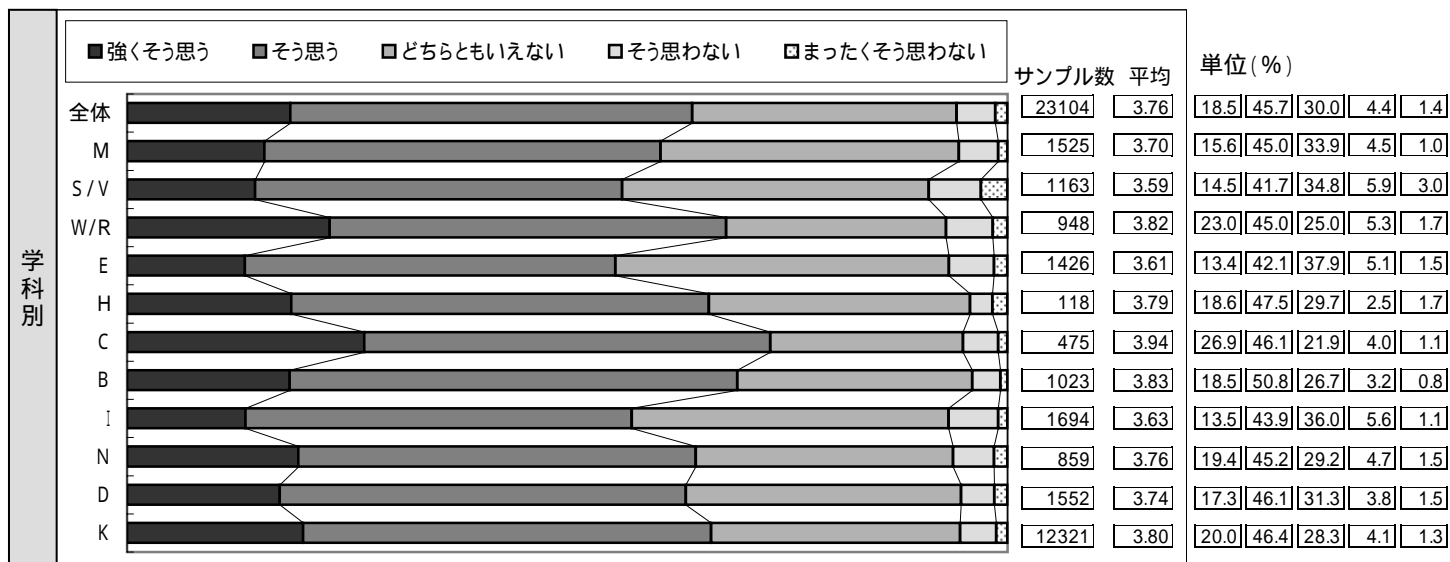
(7) 授業の目標は明確である



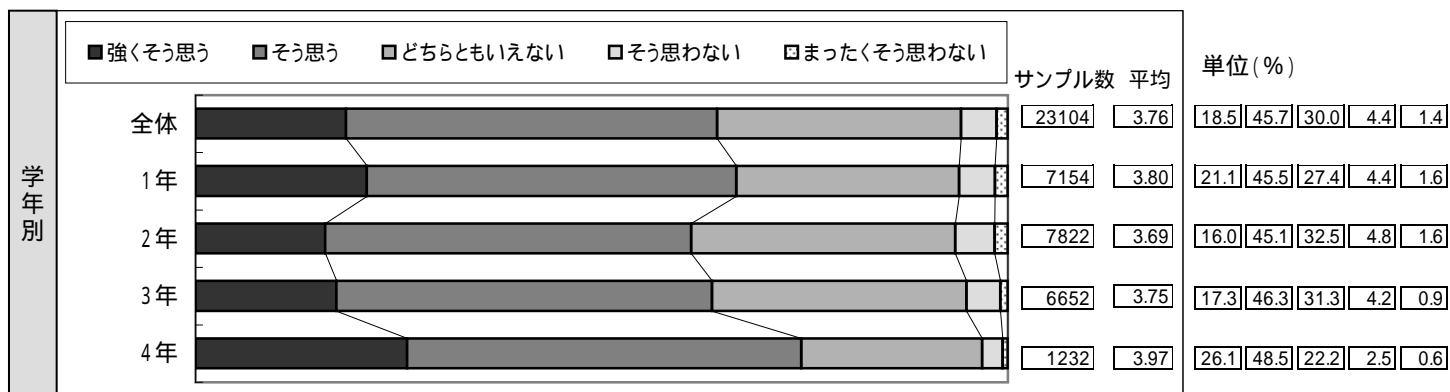
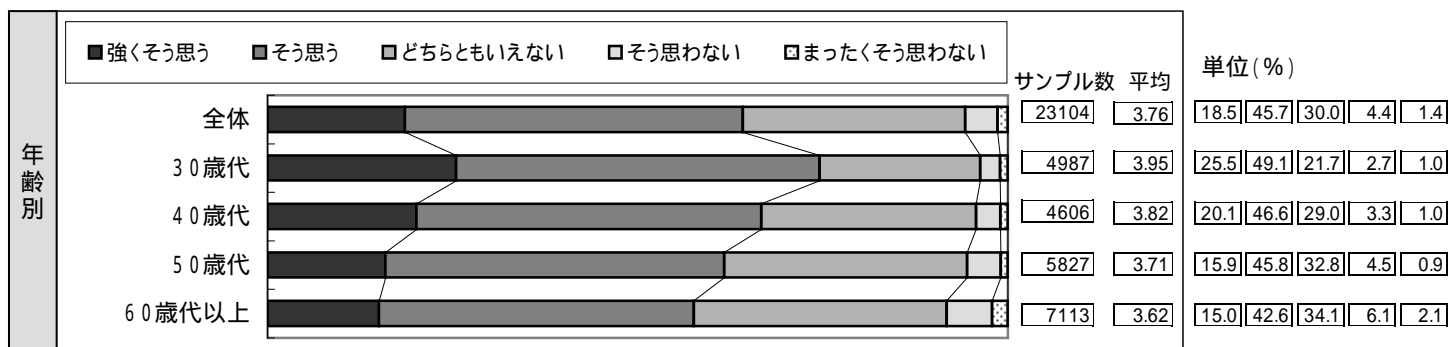
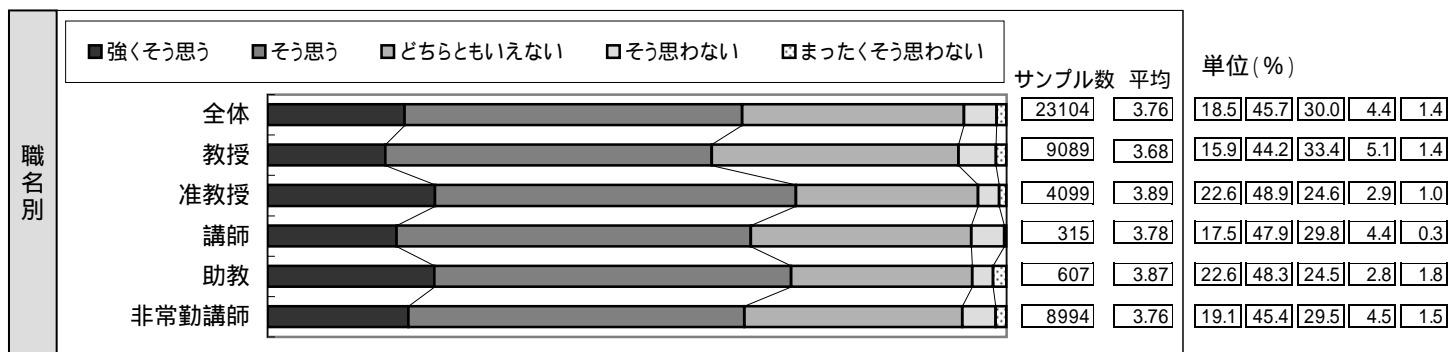
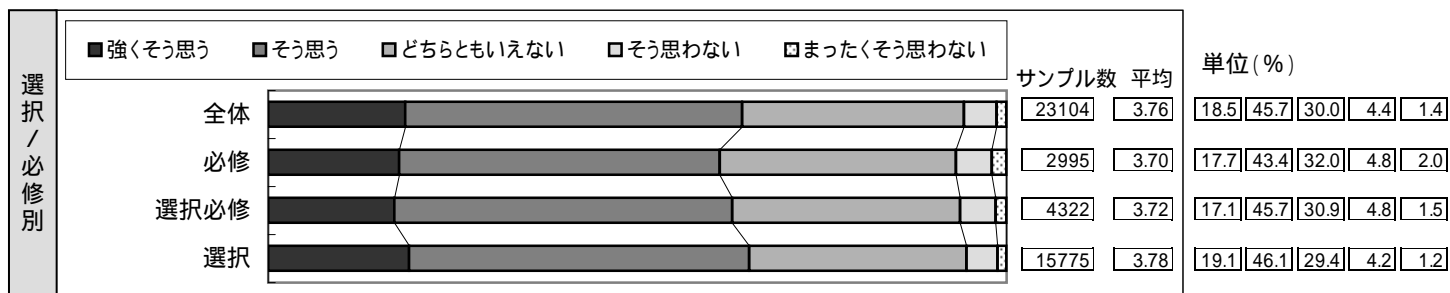
(7) 授業の目標は明確である



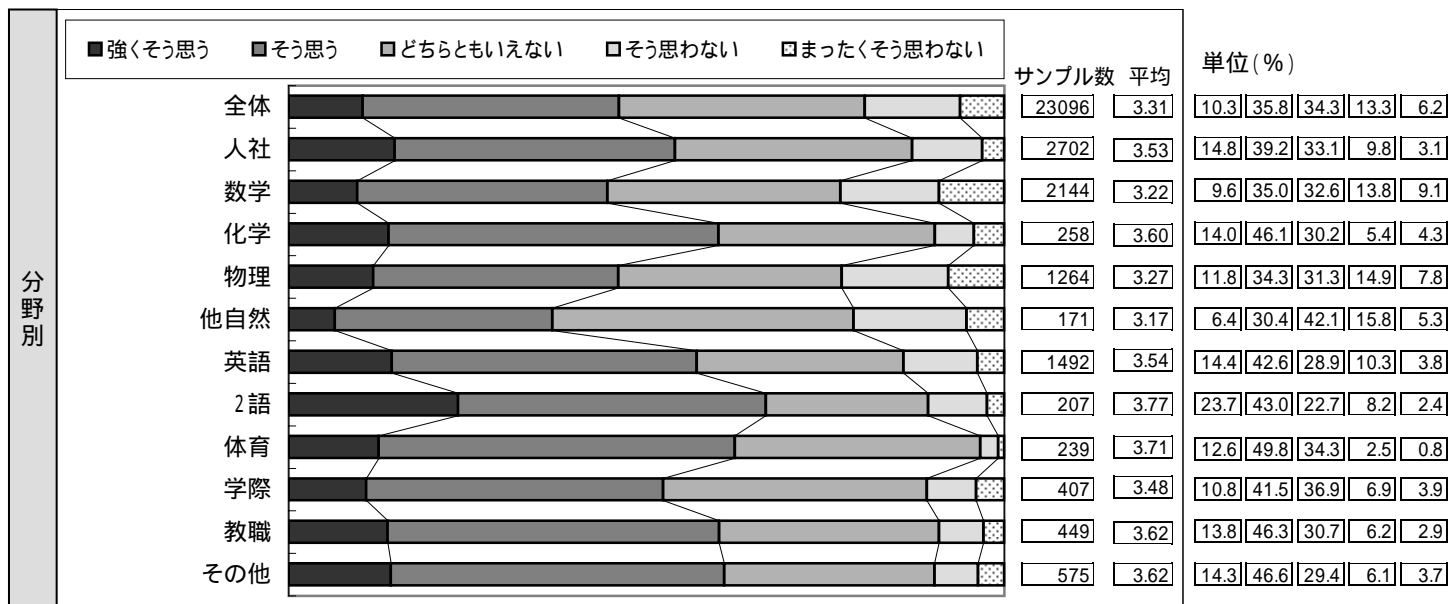
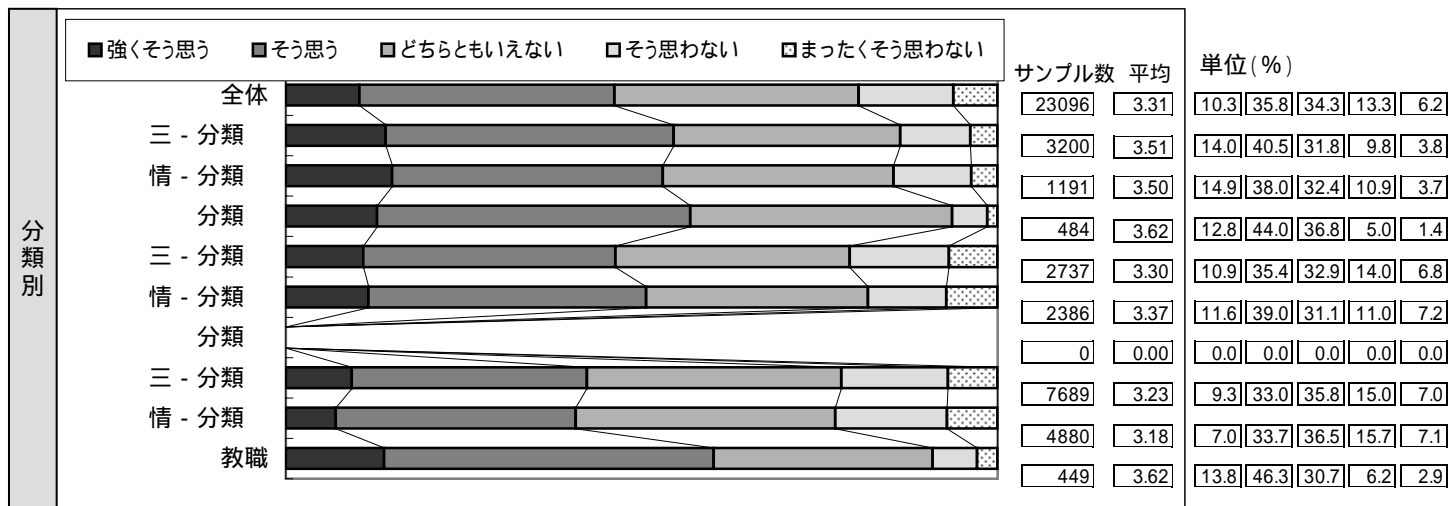
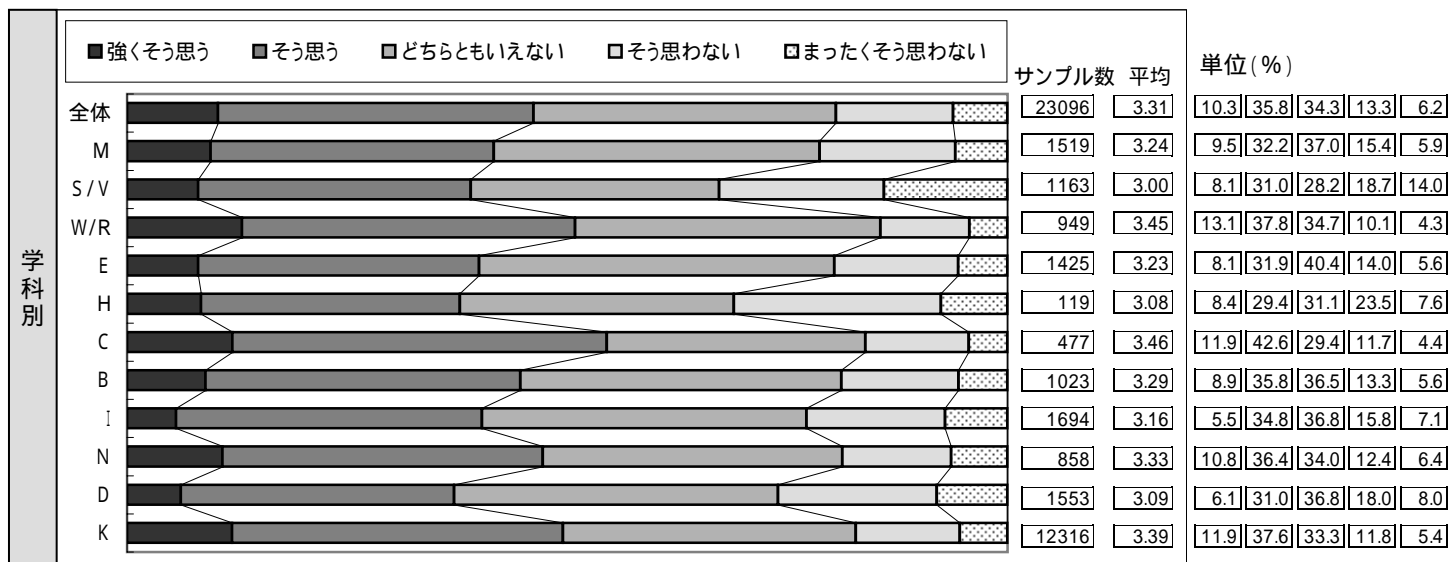
(8) 先生の授業の準備は良くできている



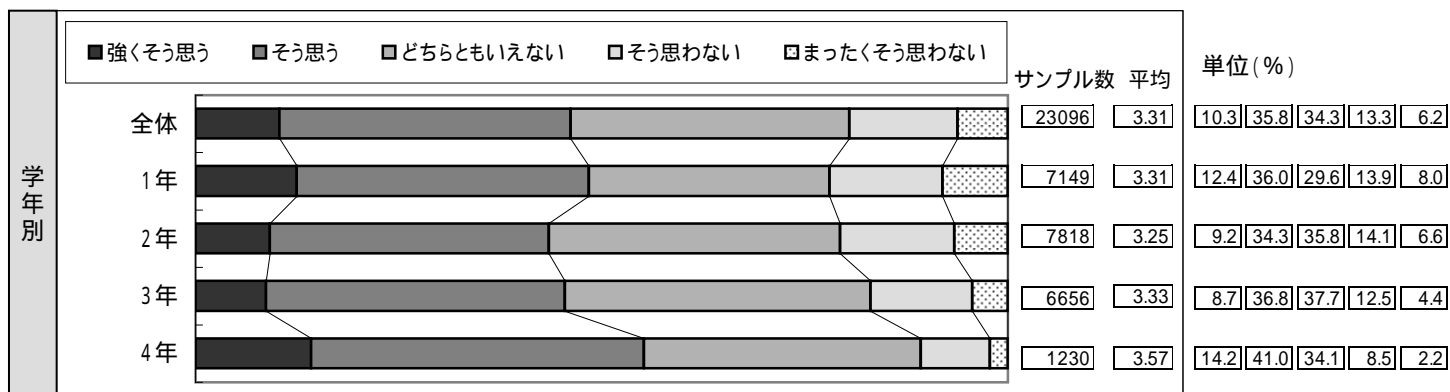
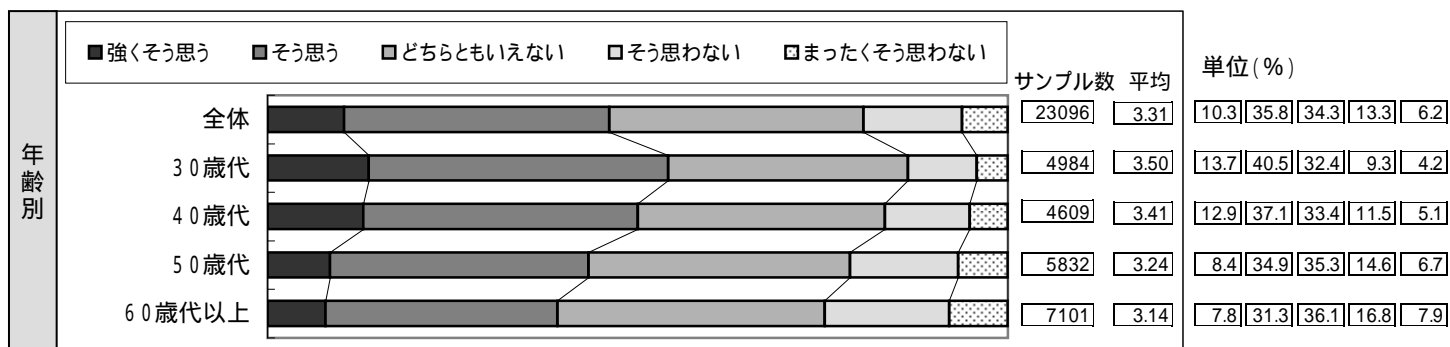
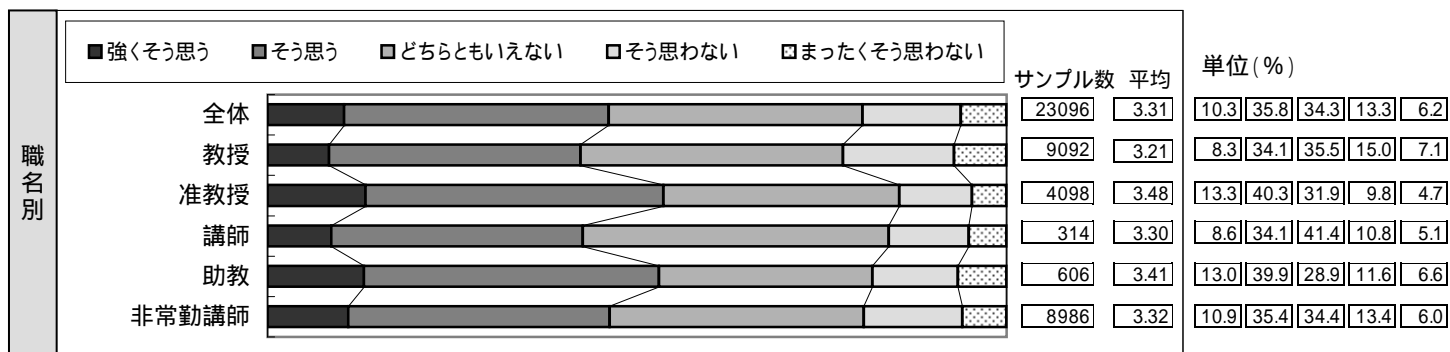
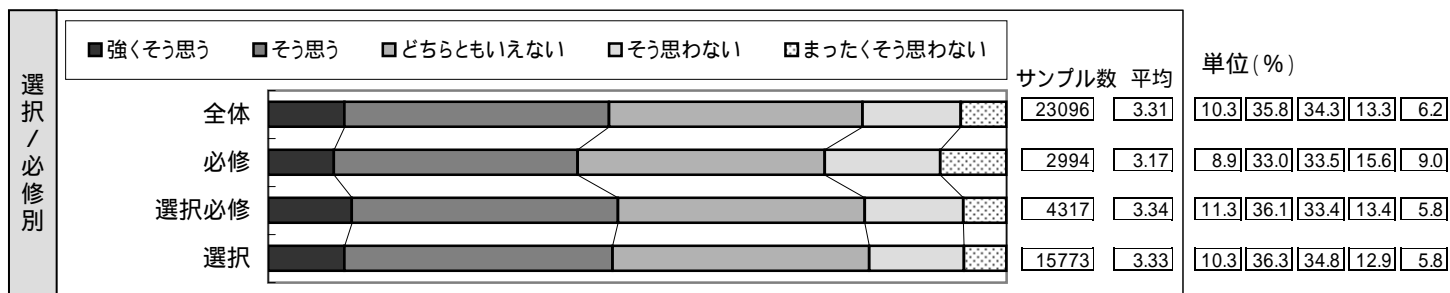
(8)先生の授業の準備は良くできている



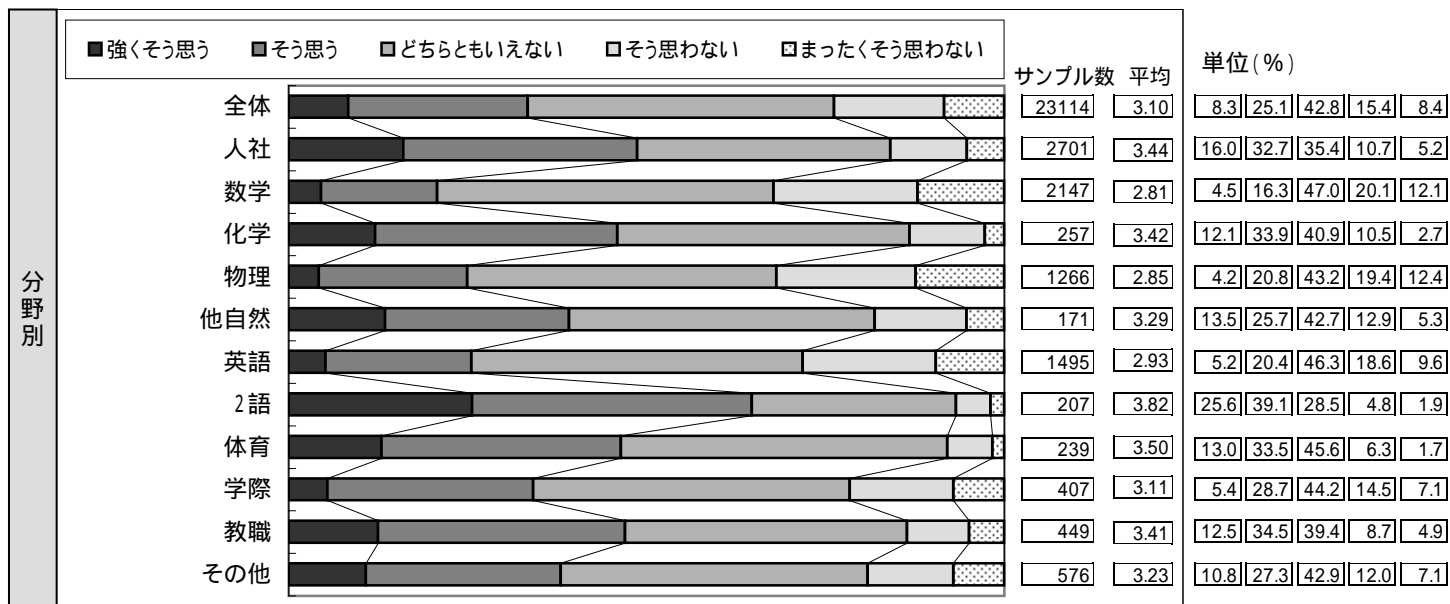
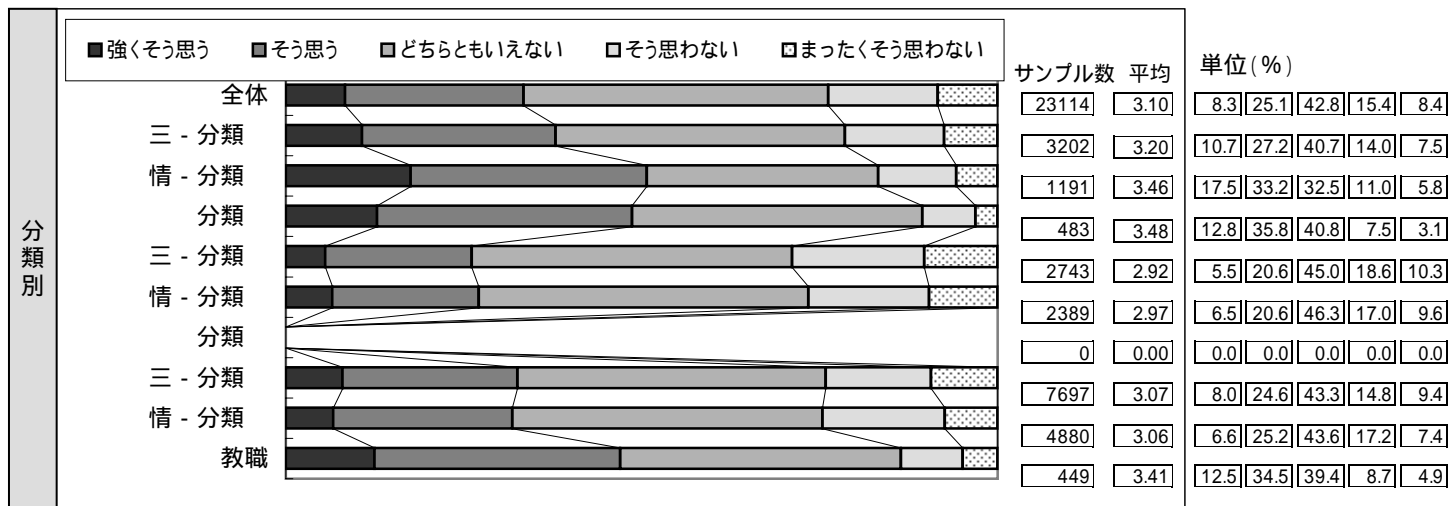
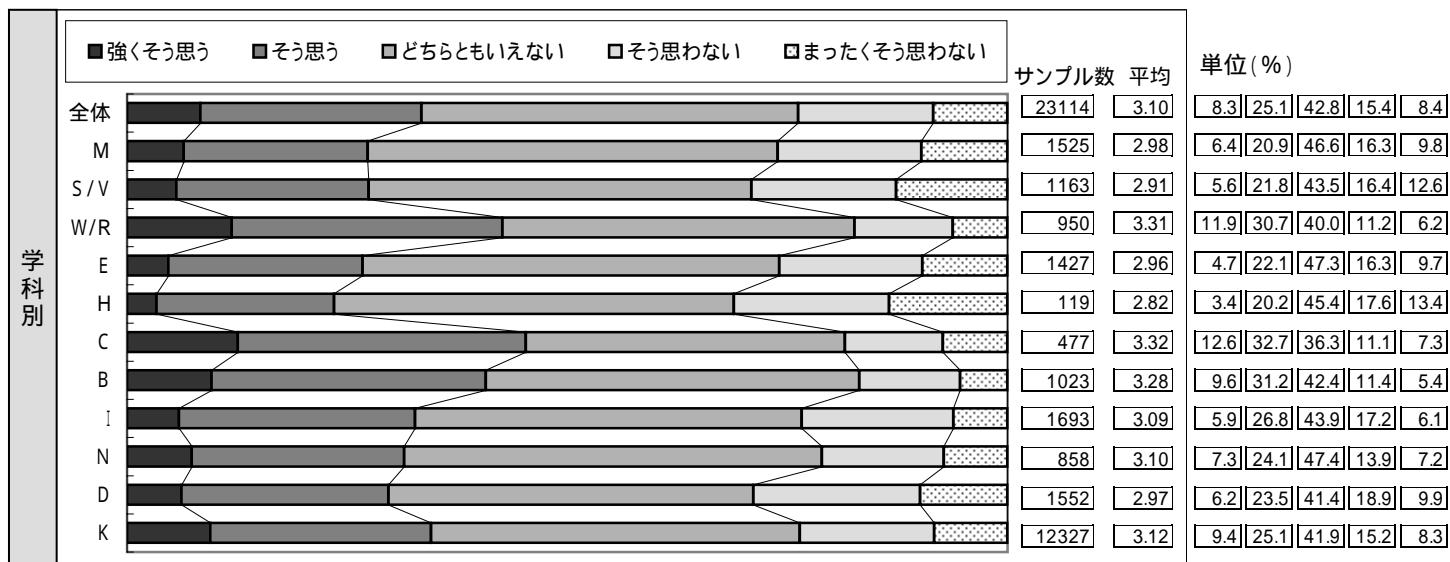
(9) 授業内容は理解できる



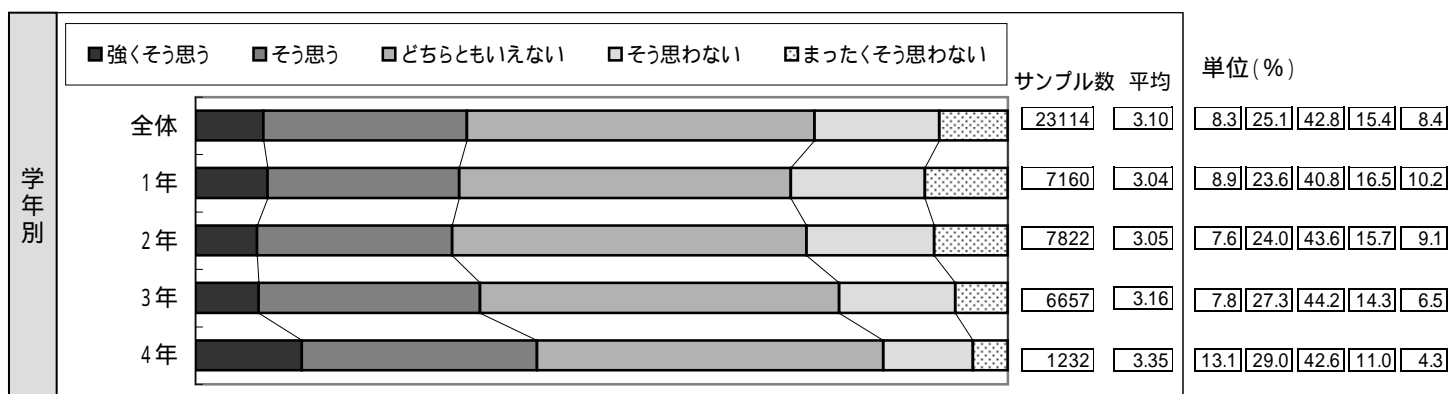
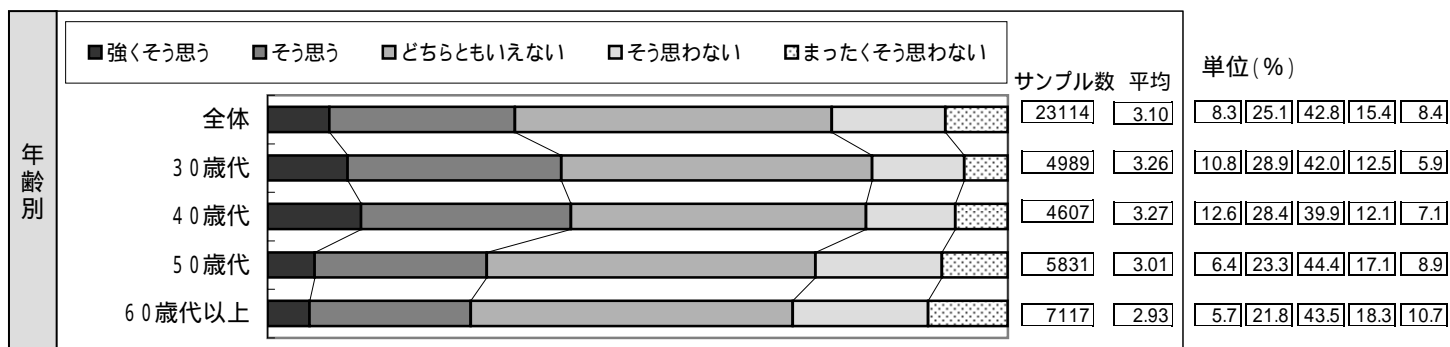
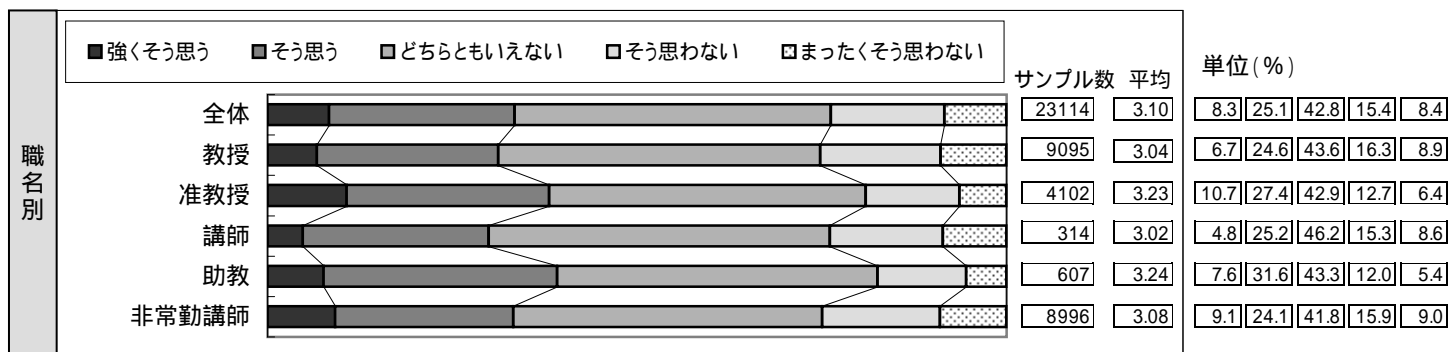
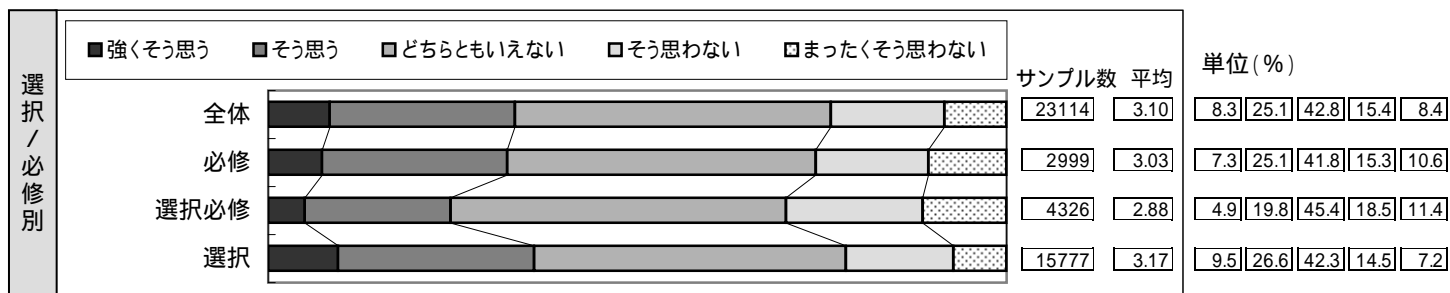
(9) 授業内容は理解できる



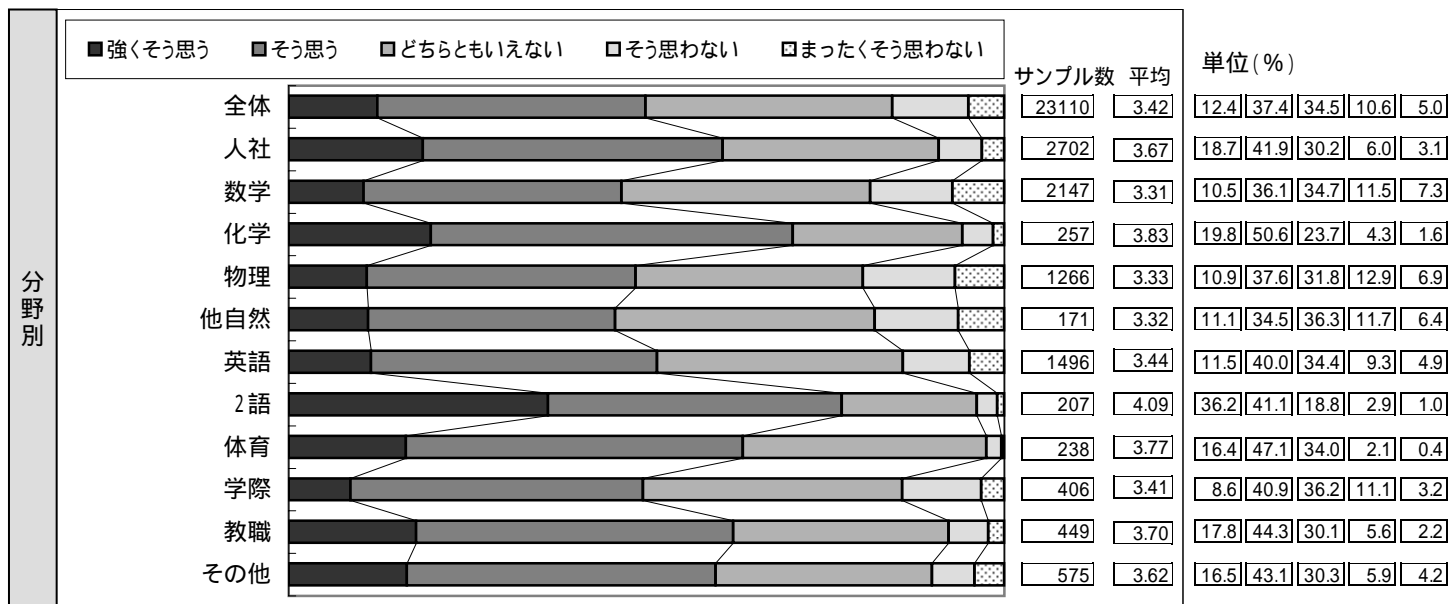
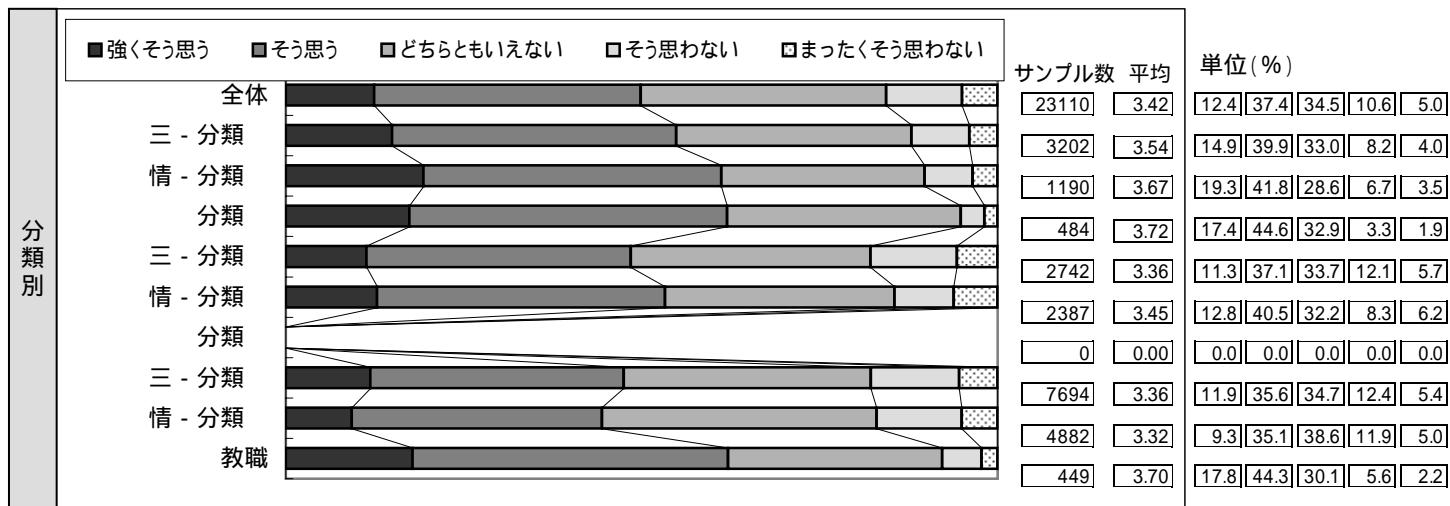
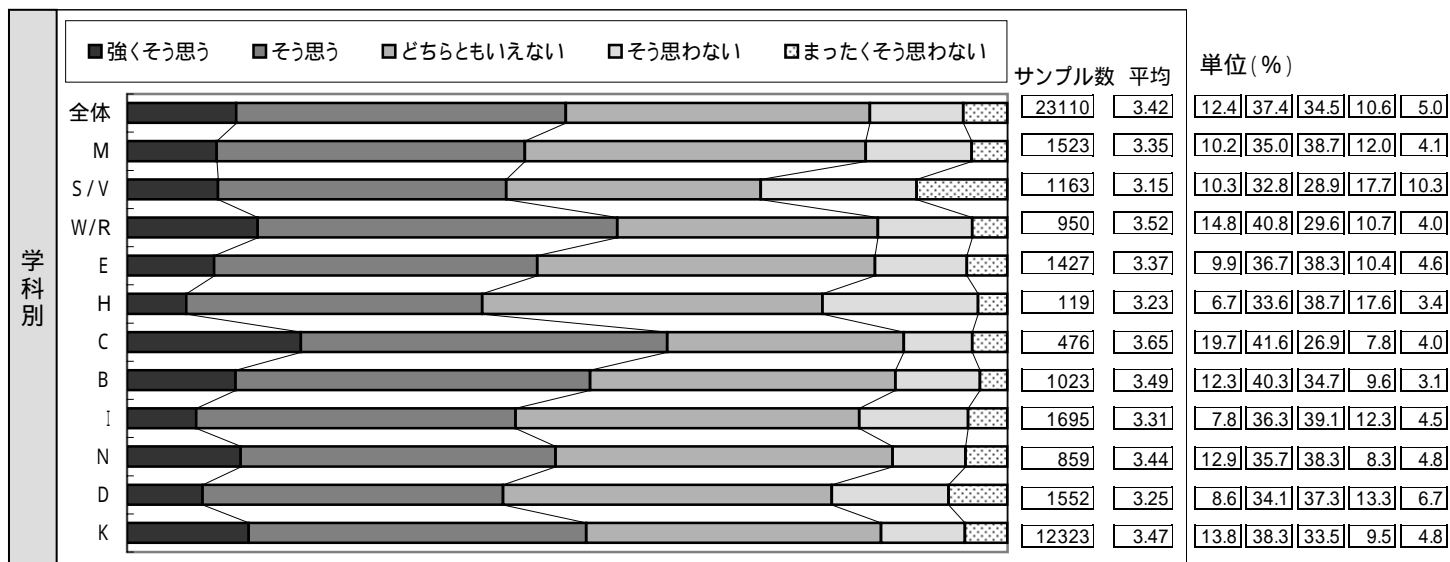
(10) 授業内容に刺激を受けたり、新たな興味がわいてくる



(10) 授業内容に刺激を受けたり、新たな興味がわいてくる



(11)総合的に判断して、この授業に満足している



(11)総合的に判断して、この授業に満足している

